洋学文庫
文庫8
B 31

舎密開宗稿目次

山高表演説
精消石法
炭酸加里
舞酸曹達
硫酸苦土
塩酸重土
焼酒
加列児泉記
焼酒又説
半炭酸加里
半炭酸曹達
炭酸苦土
塩酸加尓基
舞酸加尓基
腐敗論
留鳥法
ヒグロメートル
硫酸アートル

39-8084

亜的児類
消塩酸
烽酸
アークワ パガヂニカ

焚水素法
氷醋
鍍泉

山高表演沅

表云 蒙多獨尔山。葛西尼測為一千令四十八佛蘭西耳旬

○演云「カツシニ デ テュリイ」（按ニ葛西尼の子姪ならん）千七百三十九年ナングスト月ニ蒙多獨尔の（谷）Vallei ニ於て測量せしニ其山（谷）Vallei より高きこと五百〇九耳旬、Capucine 巌ハ二百二十一耳旬なりと云 此ニ據て算すれハ 蒙多獨尔ハ海の水平より（高きこと）一千六百四十八耳旬 カピユシン巌ハ七百六十耳旬、デス バイチス村ハ五百三十九耳旬高しと知る

表云 ピユイ デ ドーメ 葛西尼為八百十七耳旬

○同上人ノ測量ニテ「ピユイデドーメ」ハ Fanide より高きこと五百五十七耳旬「フランシスカーチル モンニツケン」の游苑より五百六十耳旬

高し「ペチツト ピユイ デドーメ」按ペチツトは小の義なり以下小と訳す ハ其游苑より
七百四十六耳旬高し 故に「ピユイ デドーメ山ハ距海面 八百十七
耳旬小ピユイデドーメ山ハ七百令六耳旬なりと決せり「ゲレルモント
府の地ハ最偉の悪にて 二百六十耳旬 最高の處まで二百七
十耳旬なり

『○按葛西小傳副名玉函涅斯。度窊尼究斯祖係貴族千
六百二十五年寛永二年第六月八日誕于百里奈尓度ニ千六百五
十年慶安三年挙星学大教諭千六百五十三年承応二年達ニツダ
フリテイ于聖伯多禄寺中ニ千七百十二年正徳二年第九月十四
日無病而没 コレ高名の葛西尼なり山言表を著せし葛西
尼ハ千七百十八年に把列斯学校の記なりきぞ是れ上人とハ別

なるべし 此ニ云カツシニ デ テユリイ」ハ高名葛西尼の孫にて此作ん欤』

○巴須没多曰予千七百六十四年「ピユイデドーメ」山下の高阜ホーゲ フラツクテに
於て本山を測てし二百二十六耳旬を得たり 因て此高阜
ハ距海面五百九十一耳旬なるをを知たり

按に五百九十一に二百二十六を加て除れハ八百十七と為る即
本表葛西尼の測に略合り

l'aiguille d'argentière, la Corne de midi, en le Velan.
ハ「テチリー」ハ鎗山より大に高し
Buet 山ハ（アルペン中に在りて高千五百七十九耳旬）Géant 山ヨリ僅ニ九十三耳旬偉し
Guia 府ハ Canigou 山より二十耳旬高し
El Coracoi 山ハ字露中の最高山にて 二千四百七十耳旬

孛露ニテハ二千三百耳旬の山〔頂〕ハ草木生ぜず二千四百三十四耳旬の高さハ
四時積雪あり
牙而扁諸山ニテハ千五百耳旬の高山ニハ常ニ積雪あり
佛蘭西 アロウエルグ子部の〔中〕諸山 蒙多獨角山ハ〔四時〕積雪ある年あり
千七百七十三年の如き第七月ノ季まで積雪全く氷塊と為て
残りしことありき 如此年連年〔續いて〕にて残んで氷山を為べきなり
孛露の「ミンボラッコ」山の一部ハ積雪〔高サ〕七百八十六耳旬ニ至る 蒙多
ブランク山の雪の高サハ未だ測量せず
徳の律苦云 サホイア」の牙而扁ハ距海面千三百〇七耳旬半あり
頂ニ一ノ「アルドイン ステーン」あり其石面ニ アムモンス獣角の印するを
○ Kan Cigne 内 Venere 山ハ距海面千百七十二耳旬あり山頂ニ

蠣殼の化石あり 沙烏須列其一片を発せり
距海面五六百耳旬〔以上〕なる山上ハ大気ニ至て淡気混して不潔なり〔平地の気よりも〕又酸素
少しなる大気ハ中等の高サの處最も利あり 沙烏須列の説ニ
距海面二三百耳旬の地〔気〕もまた最も利あると云
○ウエルルース」説ニ何様の高山なりとも少しも地球の正円ニ害あらざる
なり夫も「ピットミンミヤ山〔アメリカ中ニ在〕ハ把理斯法一萬三千八百尺
即ち「ト、ト列應第王一萬四千二百七十六尺有奇なり〔今〕此を地半径
と比較せんニ地半径を和蘭法一千一百二十五里即列庭二千〇二十
七萬尺と算したれば此山の高サハ地半径一千四百二十分の一ニ至
らざれば〔ヘ〕あり且ツ如此高山ハ地上ニ多からず要するニ皆海面より
ハ高きものなるまで猶砂粒を球上ニ伏するが如く或ハ些の不平あるが

如し鍍工の鍍し造る球果して正円なりや否示すれば皆正円なり
見ゆ又月蝕を見るに其地影ハ又正円にて曽て錯者凹凸を
見ることなし

坪井蔵写本舎密消石條抄譯

精朴消法

尋常ノ消石多火ニ拘ラス粗末トシ冷レハ結晶スヘキ程ノ沸湯即チ消石ノ五六倍量トノ沸湯ヲ用テ溶シ此ニ半炭酸加里ノ溶液ヲ点一滴シテ白泑（即加尔基土苦土ナリ）ヲ生セシメ白泑復タ生セサルニ至リ其滷ヲ濾過シ徐々ニ蒸散シ試ニ冷石上ニ滴メ晶ヲ結フニ至リ火ヨリ下シ冷処ニ置テ晶ヲ結ニム此晶ヲ無膠ニ撒布メ乾シ貯用ス○半炭酸加里液ヲ滷中ニ点滴シテ白泑ヲ生スル所以ハ原来朴消ニハ消酸加尔基消酸苦土ヲ雑ス今此ニ加里液ヲ加ルニ因テ加里ハ雑塩ノ消酸ニ和シ炭酸ハ加尔基苦土ニ和ノ降リ消石特リ滷ト為ルナリ

○精消ハ其晶形有法ニテ六稜其二面ハ必ス四面ヨリ濶ク四面ハ必ス

二面ヨリ狭ク其頭ハ斜尖ヲ為ス veelzijdig worden dubbelen, twee
aan twee gevormd, met de platte zijden tegen elkander;
此具微温ヲ以テ拆裂ス試ニ手ニ握レハ手ノ温気ニテ拼裂数ヲ生ニ
其紋理ヨリ砕ク ○精消ハ気ニ中テ潮ラズ消酸加爾基、消酸苦
土ヲ雑ル者ハ其塩大気ノ水湿ヲ引クニ因テ潮ヲ生ス ○一分ハ水六
七倍ニ溶ケ沸湯[redacted]ハ等分強ニ溶ク故ニ飽和セル熱溜ハ消石五倍ヲ
含[redacted]メバ冷レバ忽チ消ヲ結ブ ○精消ハ消酸銀液ヲ亙ニテ溷
ヲ生セズ ○精消ハ餾水ニ比メ其重サ一萬ト一萬九千三百六十九
トノ如シ

〔火薬方〕 消石三十八分 木炭六分 硫黄二百分〔一の誤〕

半炭酸加里

尋常商賈ニ在ル者ハ炭酸塩土、炭酸加尓基、酸化鉄、満俺ヲ雑ヘ
再精ノ者ト雖モ硫酸加里、塩酸加里、ヲ脱セズ
ポットアス数種アリ般鳩壽其真加里分ヲ含ム多少ヲ以テ之ヲ分ツ
其涜ニ亜墨利加ホットアス」ヲ最佳トス千百五十二ヨリ精炭酸加里八百五十七分
ヲ得ヘシ魯西亜ポットアス」亦然アリ但シ精炭酸加里七百七十二分
ニ過ギズ「ダントシフ産ホットアス」ハ僅ニ六百令三ニ過ギズ
般鳩壽常ホットアス中ニ真加里幾何分アルヲ測ル法ハ至精苛性ノ
乾加里百瓦ニ至精ノ消酸ヲ飽シム但シ同シ消酸ヲ用テ飽クタ
少ヲ記スルナリ
精苛性加里ハ半透明ニメ九十度ノ熱ニ溶ケ、水ニ溶ケバ可覚熱ヲ生シ

炭酸加里

精製半炭酸加里二分ヲ雨水三分ニ溶シ濾過シ大格尓弗ニ入ル格
尓弗ハ其液ヲ盛テ二十分ノ一ニ至ルベキ寛大ノ者ヲ要ス」次ニ頗ル大ナル
レートルト」ノ上腹ニ孔アル者ヲ取リ孔ニ鳩尓苦ヲ栓定シ内ニ炭酸加
尓基三分細碎者［或大理石ヲ用フ更ニ佳］嘴ハナリタケ長ク格尓弗
ノ液面ニ觸ルヽヤウニス又此装置堅牢ニシテ動カサルヤウニス動ケバ結見
ヲ妨グレバナリ「レートルト」ト格尓弗ノ接際ハ固封セズ紙ニテ封スベシ装
置成テ後硫酸二分雨水八分ヲ和シテ静タルヲ熱ナク消テ後列篤午多
中ニ注ク
此製法ハ夏月ニ行フ能ハズ其故ハ炭酸尾斯暑熱ニ因テ飛散スレバ也
中等ノ寒氣ニテハ溶解易シ又凍寒ノ候ニモ行ベカラズ其液未タ
全ク炭酸ニ飽ザル前ニ凍結スレバナリ故ニ五十度時候ヲ最良トス

○二小時ノ間ニ稀硫酸六分一ヲ「レートル」ニ注ク毎度トス炭酸尾斯ハ大氣ヨリ重
キ故ニ降テ液面ヲ擁シテ液ニ和ス又時々箸ヲ以テ「レートルト」中ヲ攪
擾メ炭酸尾斯ノ發逸ヲ促スベシ稀酸ヲ徐々ニ入ヿ沸騰止ヲ
候ヒ「レートルト」ト格尓弗ノ間ヲ湿氣胞ニテ重封シ二十四小時ノ間靜定
スレバ格尓弗ノ底ニ炭酸加里ノ晶簇生ス上液ヲ傾テ晶ヲ収ベシ○
上液ハ此術ニ因テ分レ生タル珪土アルニ因テ再ヒ濾テ之ヲ去リ蒸散セシ
メ前法ニ因テ又炭酸加里ヲ得ベシ○取得タル炭酸加里晶ハ久ク
氣ニ晒フ勿レ炭酸復タ飛散スレバナリ夕ベ此晶ヲ餾水少許ニテ洗ヒ
無滲紙上ニ置テ三日許乾シ玻璃瓶ニ固封スベシ
又法
一小車ヲワーゲン造ル二枚ノ木板ニテ造ル此板ハ濶サニ沿フテ重ヌ

オップエルカンデルベヱスチクト下ニ小輪 穿ノルチース アリ少ク斜メニ酒ニ方ニ流ルヽヤウニシテ一
ニス 板面ニ二孔ヲ穿チ其ノ一ハ恰モ重板ノ間ニ大理石或炭
酸加爾基ヲ納タル堝ガ膠ニテ嵌入スルヤウニス
尋常ノ白玻瓈罎或ハ白長頸堝ヲ取リ初ノ者ニハ加里
酒ヲ盛リ第二ノ者ニハ側嘴アル堝ニ此炭酸ヲ發スル
物料ヲ盛テ外方ヨリ附属ス此二堝ハ粗キ玻理管ニテ連續
ス管端ハ酒中ニカ或ハ一堝中ニハ半寸ヨリ深クハ嵌入セズ
而後側嘴ヨリ稀酸ヲ徐ニ注キ此装置ヲ皆酸ヲ入レ了ルマデ彼此ニ運轉ス大氣ノ堝中ノ
盡ク堝中ヨリ追出シ了ルヲ知ラバ則固封ス
○此装置ノ所長ハ第一ニ炭酸多ク發越シ且ツ發散シ易シ
第二ハ炭酸精クヌ容易ニ加里ニ和ス故ニ結晶美ナリ但シ甚ダ

強ク運轉スルヿ勿レ又甚ダ久ク運轉スルヿ勿レ然ル時ハ其良諸
有法ナラズ

ベルトルレツト氏法

半炭酸加里ニ炭酸諳模尼亜ヲ和スレハ炭酸加里良ヲ結ンデ諳模尼
亜飛散ス
○成分 ベルグマン曰加里四十八分、炭酸二十分、水三十二分、ペルレチール
曰加里三十分炭酸四十三分水十七分 原如此按十七分当作二十七分

半炭酸曹達

硫酸曹達二斤ヲ風化ノ粉トシ尋常炭酸加里一斤ヲ加ヘ坩堝ニ入
レ煆テ熔化シ鉄臼ニ傾ケ熱ニ乗シ杵砕シ砕粉ニ煮水按ニ炭酸ヲ除ク
端ニナルベシ遺シ 三斤ヲ注キ一二時ヲ経テ濾過シ煮テ結晶セシムレハ初ニ

開宗第八十三章類法ヲ挙ル甚タ粗ナリ宜ク此ヲ補ベシ

硫酸加里ヲ結ブ残涵ヲ煮テ二三迴蒸散スレバ精好曹達ヲ得

○又法塩酸曹達ヨリ曹達ヲ製ス

此法 此製ハ夏月ニハ良ナラズ冬月ニ宜シ又大量ニハ常ニ製シ難ク多
量ニスレバ必ス宜シ術者思諸 其法 海塩二十斤ヲ水六十斤ニ
溶シ半炭酸加里二十五斤ヲ加ヘ和メ濾過シ煮テ塩膜ヲ生シ其膜
両三回自ラ落テ又生スルヲ候ヒ其涵ヲ漸々徐ニ冷ス冷ノ華
氏ノ六十度ニ至レバ塩酸加里ヲ生ス於是其涵ヲ毛布ニテ漉シ
殆ニト冷ルマデ放置スレバ仍塩酸加里晶ヲ生ス這般ノ晶ニハ既ニ曹
達分ヲ含メリ此ヲモ除テ其涵ヲ他器ニ写シテ全ク冷セバ當時ニメ精曹達
晶ヲ結ブ布中ニ残リタル塩ハ硫酸加里、塩酸加里ニテ少シノ曹
達ヲ夾ムガ故ニ少水ヲ注キ其晶ニテカキマデ淋洗シテ所夾ノ曹達ヲ溶シ洗水ヲ本
涵ニ合シテ又曹達ヲ結ニムベシ ○本涵放冷ノ後尚塩酸加里ト曹

達ト雑生スル者ハ之ヲ水ニ煮溶シ煮テ半ヲ減シテ放冷スレバ塩酸加
里晶ヲ結ヒ表面ニ曹達大晶ヲ結フガ故ニ分別シ易シ如此再三煮テ曹
達ヲ収ムベシ 前晶ヲ以テ精曹達二十斤次精曹達一斤半許ヲ
得ベシ ○此半炭酸曹達ヨリ炭酸曹達ヲ製スベシ

「○半炭酸曹達或ハ硫酸加里或塩酸曹達ヲ加テ偽ル者アリ此ハ水ニ
溶シ塩酸重土ヲ以テ硫酸加里ヲ試ルニ精品ハ澄ヲ生セズ 塩酸曹
達ヲ加テ偽ル者ハ消酸銀液ヲ以テ澄ヲ生ス 又此曹達ハ三稜尖頭デリ
アーキヘピンニテヘキリスタルレン 晶ヲ結ブ」

硫酸加里ヲ以テ偽ル者ハ之ヲ消酸ニ

按ニ消酸曹達ナルベシ

此章外篇ニ補ベシ

又法

硫酸曹達一千分ニ水洗炭酸加尓加尓基同分和シ木炭五百五

十分ヲ和シテ暫ク置キ回焔爐ニ白熾シテ一等ノ凝塊ト為ルニ至リ火ヨリ出シ暫時湿地ニ置キ而後淋メ滷トシ常法ニ因テ結晶セシム

「ヲルボン氏製法（汰布吾尓）

塩酸曹達百分ヲ~~密陀僧~~水四百分ニ溶シ密陀僧四百分（ワーヘル）ヲ加ヘ塩酸ヲ鉛ニ和シ曹達ハ滷中ニ残ル然レモ其曹達精粋ナラズ

自生

依蘭土ノ「ヘクラ山泉、墨可古、テ手リーテノ湖水ニ多シ

炭酸曹達成分

ベルグマン曰曹達二十分、炭酸十六分、水六十四分

硫酸曹達晶形

langwerpige zes of vierhoekige kristallen, 4zijdig of lange

gestreept, gevijzt en eenzijdig in vierzijdige spitsen.

○硼酸曹達

硼酸曹達ハ「マルクガラーフノ創見ニテ人尿中ニ在（有）リト云舎密諸家特ニ別尓傜満モ一種ノ異塩トシテ真珠塩ノ名ヲ命ゼリ其成分ハ硼酸ト曹達ナルハ物斯多綸甫ノ發明ニ係ル

此塩晶形一ナラズ或六稜或板状、或斷蕨（アフゲコムテスピッツェン）ヲ為ス美晶ヲ結ハシケルニハ曹達必ス過大ニシテ菫花ヲ緑変スル程ニテ結晶セシムベシ若シ酸過多ナレバ晶ヲ結ヒ難ク細小ノ薄片ヲ為ス砂塊ヲ為スヿ蓬酸ニ似タリ此レベルグマン真珠塩ノ名ヲ命スル所以ナリ

○汝鳥須列云此塩モ木炭ヲ加ヘ燬ハ硼出ヿ硼酸加里ノ如シ但火力更ニ猛烈ナルヿヲ要ス　其法　木炭　六十尾菓馬ニ此塩半

量ヲ和シ常法ノ如ク餾スレハ醋二瓦蘭馬半出ト云

成分ハ諸家所説同シ醋酸十五分、曹達十九分、水六十六分、

○此塩或硫酸曹達或塩酸曹達ヲ雑ヿアリ此ハ味ヲ嘗知リ或

塩酸重土ヲ加レバ沈降物アリ其降物消酸或塩酸ニ溶化ス

製法

醋酸多キニ拘ラス水一倍ヲ和シ稀クシ半炭酸曹達ヲ能過ス但シ晶ヲ結バシムルニハ曹達ヤヽ勝ツヲ佳トス ○醋酸精潔ナレバ沈降物無シ醋酸ニ加尔基アレバ加尔基分レテ澱ス之ヲ濾取ルベシ○溜ハ徐ニ煮テ水気ヲ蒸散シ一滴ヲ冷キ大理石上ニ瀝ノ凝ルヲ候ヒ晶ヲ結シム晶ハ餾水少許ヲ以テ洗ヒ無膠紙ニ夾ミ乾シ玻瓈ニ緊封ス

此塩佳鹹味アリ海塩味ニ類ス緩下ノ効アリ近世創テ諳厄利亜ニテ薬用トシ其後傳テ獨乙ニテ用タリ

晶形ハ斜方ロイトホルミヘ透明卓状ニメ気ニ中テ潮ラズタヽ塩粉ヲ被ル気ニ中ヿ久則粉化投火則速融化於晶水而後為玻瓈状物

炭酸苦土

冷製温製ノ二品アリ「ビユコルス」ノ説法ニ硫酸苦土三十二分ヲ雨水三十二分ニ溶シ此ニ半炭酸曹達五十一分水百二十分ニ溶シタル液ヲ加テ二液共ニ濾テ清澄ニス澱ヲ生セシメ其澱ヲシバシ洗テ洗水味無ニ至リ乾ヿ常法ノ如シ之ニ因テ甚軽キ苦土ヲ得 ○ビユコルス冷熱二製法ニテ成分ニ區別アルヿヲ説テ曰

煮製苦土ハ　炭酸 三十五分　苦土 四十三（二）分　水 二十三分

原如此三ニ作ル事不合二十二分ノ誤ナルベシ

冷製苦土ハ　炭酸 三十二分　苦土 三十三分　水 三十五分

○通常ノ炭酸苦土ハ口中ニ（常ニ）以テヤヽ亜尓加里味アリ此ハ其苦土口中津涎中ノ燐酸諳模尼亜ヲ分離シテ諳模尼亜ノ亜尓加里ヲ舌ニ覚ルナリ

○（半炭酸）加里酒ヲ以テハ（苦土）全ク炭酸ニ飽タル苦土ヲ製スルコト能ハズ蓋シ（所生）炭酸苦土ノ一分加里中ノ炭酸ニ溶テ残ルガ故ナリ故ニ之ヲ煮沸シテ過剰ノ炭酸ヲ駆逐シ苦土ヲシテ恰モ（當ニ含ベキ多少）相應ノ炭酸ニ飽シ沈ムルナリ○何ヲ以テ所生ノ炭酸苦土加里中ノ炭酸ニ溶クヲ知ル試ニ全炭酸加里酒ヲ硫酸苦土液ニ和スレバ（苦土）少シモ分レズ然ルニ之ヲ煮レバ多分ノ苦土生シテ器底ニ沈ムナリ之ニ因テ炭酸苦土ハ冷製ヨリ煮製ヲ優レリトス

苦土全ク炭酸ニ飽ケバ品ヲ為ス其品或ハ方柱ヲ為シ或ハ繊キ針ヲ六稜或ハ八稜ノプリスマヲ為ス大気ニ中テ炭酸ノ一分飛散スレバ一分ハ粉化シ一分ハ半透明ナル品ト為ル

福鳥尓挌夜乙云半炭酸苦土ハ　苦土 四十分　炭酸 四十八分　水 十二分

結晶全炭酸苦土ハ　苦土 二十五分　炭酸 五十分　水 二十五分

○硫酸苦土

方面柱ヲ為ス最精者方面頭ヲ為ス

○塩酸加尓基

塩酸加尔基一分ヲ亜尔箇児三分ニ溶シ燃セバ嫣紅ノ焔ヲ[redacted]揚テ
焚ク
福乌尔格屋乙、般鳩壽、ゴイトン諸賢ノ説ニ此者ヲ氷雪ニ和ノ人為ノ寒冷ヲ致ス雪十八分ニ此塩二十七分ヲ和スレバ列氏零下三十四度ノ寒冷ヲ生ノ流動ス○上[redacted]液アル器中ニ塩酸加尔基八分雪六分ヲ和シ加フレバ零下四十三度ノ寒ヲ生ス○此和剤上器中ニ和セズ持立ノ者ハ三十九度ノ寒冷ヲ致ス

peryst en allen

又云雪或冰末ニ加レハ湏ヲ凍スベキ寒気ヲ生ス即チ華氏零下四十度ニアタル○羅徴都創テ之ヲ伯多尔蒲尔孤ニ実験[redacted]セリ ペピース人名 アルレン人名 塩酸加尔基雪各三十比ヲ以テ湏五十比ヲ凍ラセリ

塩酸重土

硫酸ヲ知ル为[redacted]ノ敏捷ナルコヲ測量スル[redacted]ニ此塩ノ濃溶液一滴ハ水中ニ在テ水ノ一萬分ノ四ナル硫酸曹達ヲ[redacted]雲トシ降ス若硫酸曹達水ノ十萬分ノ九十ナル中ハ数分時ノ後ニ雲ヲ生ス[redacted]ニ十萬分ノ三ナル中[redacted]ニ数時ヲ経レバ著ニキ雲ヲ生ス

消酸ハ此塩ヲ分離メニシテ消酸重土ノ具ヲ為ス○消酸重土具ハ水十二
分ニ溶解ス此モ亦消酸ニ和スレバ消酸中ノ硫酸ヲ験スベシ
○或ハ誤事或庸工ノ為ニ塩酸重土ヲ過量ニ服セシ片ハ硫酸塩ヲ用
ベシタトヘハ硫酸加里、硫酸曹達ヲ用ニ宜シ之ニ因テ重土ハ硫酸ニ和
メ不解ノ塩ト為リ塩酸ハ其加里或ハ曹達ニ和シテ毒性ヲ
敗ルナリ

成分ハ 重土 六十分 塩酸 二十四分 水 十六分

具形ハ葉片ヲ為シ多少ニ四稜具ス甚苛、苦味、邪味アリ餾水四分ニ溶
或云冷水三分、湯二分ニ溶ク

○塩酸重土ヲ濾ニハ佳紙ヲ擇ベシ papier de porcelaine トニ云者
良トス常紙ハ硫酸加尓基ヲ雑者多ケレバナリ

犇酸加尓基

鹿角或之ニ代ルニ牛馬ノ長骨ヲ爐中ノ炭中ニ擁シ焼キ末シ篩フ
○或鹿角ヲ餾セシ後ニ残タル滓ヲ焼クモ佳ナリ

焼酒

異重ハ餾水ニ比メ一千ト九百三十一或九百三十六ノ如シ
麦焼、杜松焼ニハ○一種不佳ノ臭アリ（○蒲桃焼ニ無キ所）~~蒲桃焼ニハ此臭ナシ~~悪結列此臭
ノ由テ生スル質ヲ究ント欲メ稀キ麦酒ヲ厳密ニ露セシニ一个ノ白色ヲ
生セリ此白色ノ質ヲ試ルニ火ニ燃ルヿ獣脂ノ如クニメ（麦酒般ノ）悪臭アリ決ニ之
ヲ取テ無臭ノ蒲桃焼ニ加ヘシニ悪臭アル常ノ麦焼ト為レリ之ニ因テ
麦焼ノ臭ハ麦芽ヨリ分出来ル油ノ臭ナリト定メケリ○而メ悪結
列此臭ヲ分去テ蒲桃焼ノ如ク為ス法ヲ記メ云之ニ焼過ノ木炭ヲ入レ

列キ硫酸少許ヲ加餾スレハ臭除ク○「ビユコルツ」云木炭ハ直ニ焼酒ニ入ベカラズ綿布ニ包ミ餾鑵内ニ吊掛ベシ

オーフルゲアナルデ ブランドウエイン 二十度

スピリテユス フイーニー レヂフイカテユス ガラデユーム フイギンニ 三十度

腐敗論補註

○エルレル氏人血、潼、ボウルゴニイ酒シヤムパグ子酒ヲ各盞ニ納レ真空器内ニ貯ルヿ十五年ニメ少モ変セズ其色ハ止ニ外相変セザルノミナラズ髪細管ニ注キ顕微鏡ヲ以テ観ニ血球少モ敗レズ此レ物ノ腐敗ハ大気ノ所為ナルヿヲ見ベシ

○室中ノ敗気ヲ修繕スル古ハ火ヲ燎キ或ハ火薬ヲ爇メヲ良トセリ近世ハ塩酸曹達酸化満俺ニ水同量ヲ和シタル硫酸ヲ注テ以テ蒱魯林尾斯ヲ發シ室中ニ薫充ス

○英醫伊。普壐業列百試千験ヲ以テ防腐留物ノ薬ヲ鑒ミ塩類若干種ヲ優劣表ニ作レリ先生曽テ亜尓加里ニ防腐ノ効アルヿヲ唱フ

表例　塩名下ノ數ハ功ノ優劣ヤリ先ニ例スル者ハ効力優リ後ニ至ルニ随テ漸ク劣レリ數字下ニ十字號アル者ハ無キ者ト同位ニメ較勝レルナリ稍強ト

言シガ如シ十字篩有者ノ騈列スルハ後ニ在者漸ク強
シ鹿角塩ハ消石ニ勝リ亜尓鮮塩ハ鹿角塩ニ優レル
ガ如シ

塩酸曹達　一
光明塩　一十
硫酸加里　二
醋酸諳模尼亜　二
酒酸加里　二
メルタリユスレゲナラテユス利尿塩　二十
塩酸諳模尼亜　三
ゾウトメンゲスル　三
消酸加里　四十
鹿角塩　四十
亜尓鮮塩　四十
蓬酸曹達　十二十
琥珀塩　二十十
硫酸巻土加々里　三十十

○後進防腐ノ効ヲ称スル物ハ阿芙蓉昇頂山酸植酸炭酸幾那剥苦福烏多鶏布羅阜亭香脂札金属塩死ナリ

多識家留鳥傳久散方

盬酸曹達　九十六銭

硫酸礬土加々里　三十二銭

胡椒　十六銭

右各別ニ研末シ調匀シ貯フ○鳥腹ヲ剪開メ胃腸頭脳ヲ除キ務テ肉ヲ剔去リ嘴脚翎毛ヲ留メ此散ヲ皮ノ裏面ニ撒ケ此散ヲ撒タル敗絮ヲ諸腔ニ塡メ故ノ如ク剪創ヲ縫合スレバ盬酸曹達自ラ潮泛メ周該ニ普達ス之ヲ天然ノ態度トシ風乾スレバ百年敗レズ

○諸薬防腐ノ効ハ皆死體ニ於テ論スルノミ蓋シ生身上ニ於テハ一定防腐ノ薬有コト莫シ夫病一病ニ非ス症一症ニ非ス病ニ對シ症ニ應メ各々防腐ノ薬アリタトヘバ消酸加里ハ血液沸溢ヲ鎮定スルヲ以テ焮衝諸病ニハ防腐無比ノ聖剤タリ然ルニ之ヲ妄ニ腐敗熱ニ用レバ大ニ生力ヲ減耗シテ益々敗機ヲ催シ幾那ハ衝動ノ効アリ故ニ腐敗熱ニ防腐ノ神薬タリ若シ之ヲ時ナラズ焮衝病ニ用レバ益々腐敗ヲ進メ竟ニ腐敗熱ト為テ救ベカラザルガ如シ

紐氏謨府、加列児泉記

按ニ原カルヽス泉ト書ス一泉ノ名ニアラズ近傍諸泉ノ流

波亦米亜ノ「エルビボーゲル ケレイツ」ノ山中ニ在リ「エーゲル」ヲ距ﾄ五里 泉熱可埒卯

名ナリ
此諸泉治病ノ効有ニ因テ声名甚籍ク傳云一千三百
三十八年（至元四年 暦應元年）元ノ加列児第四世帝山ニ入テ遊猟
ス一隻鹿ヲ追フ鹿高巌ヨリ踊飛テ遁ル猟狗追テ之
ヲ不ズ帝遥ニ狗吠ヲ聞人ヲメ物色シセニ巌下ニ沸熱
ノ涌泉アリ鹿其泉ニ溺レタリ因テ其狗吠ヲ以テ猟
主ニ訴シナリ帝侍醫ヲメ泉性ヲ探明シム遥貴族ホル
ストノ脚ニ頑痛アル者ニ浴セシメ妙ニ治セリ此ヨリ
此泉ヲ加列児帝泉ト称ス今諸泉ナリ當時創見ノ者
ハ即今所謂斯布律徳尓（スプリューデル）泉ナリ

○斯布律徳尓泉ハ熱泉ヘーテ、ストロング別称ス巌下ヨリ
噴發ス上ニ石柱ノ屋ヲ構ヘ傍ニ煎塩厰アリ巨釜五
十五ヲ以テ泉塩（カルルスバーデルソウト）ヲ煮製ス巌ニ七穴ア
リ鞺鞳トメ落ツ九尺甚壮観トス凡一分時四五十噴
一小時中涌ク所四千六百三十七吊桶（エムメル名）量泉清澄熱華（サ）
氏百六十五度
○モーレンブロンチン」千七百十一年（正徳元年）ヨリ治効ヲ称ス
熱百三十八度
○ニユー（新泉）ブロンチン」千七百四十八年（寛延元年）ヨリ治効
ヲ称ス熱百四十五度

○核崘法尓度泉　巌下數歩ニ在リ熱度斯布律徳尓泉ト等シ泉側病舘ホスピタールアリ亦核崘法尓度舘ト称ス

○的列齊亜泉　核崘法尓度ノ上數歩ニ在リ熱百三十五度病婦多ク焉ニ浴ス

右諸泉成質畧同シ

硫酸曹達	二十四瓦至四十六瓦
塩酸曹達	五瓦至六瓦
炭酸曹達	十瓦至十四瓦
炭酸加尓基	一瓦至四瓦
酸化鐵	五十分瓦之一
炭酸尾斯	一寸半立方至八寸立方

○効能　小腹諸器ノ運動逆行ヨリ發ル萎黄病ニ良ナリ故ニ肺病。脳ノ各部病ヲ兼タル癲癇。肢痛内臓硬结ニハ害アリ

○加列児帝泉ヲ距ヿ遠カラズ酸泉アリ泉面六尺ノ间ハ炭酸尾斯ノ之泉水同容ノ炭酸尾斯ヲ含ム

紐氏韻府驗燥湿器「ヒグロメートル」又ホクトメートル」

燥湿ヲ驗スル器製式一ナラズ或官人貴姫ノ像ヲ造テ小宮内ニ居シメ氣ノ変ニメ其人宮ヲ出入スル者アリ或ハ漁民ノ像ニメ其笠ヲ卸被スル者アリ或ハ

貴客ノ像ニメ雨傘パラプロイヲ[redacted]高下スル者アリ按ニ先年舶来アリ
邦人摸倣メ今或ハ指針ヲ以テ燥湿ヲ教ル者アリ其市店ニ多クアリ
他数種アリ枚挙ニ暇アラズ以上皆縄索ニ錘ヲ[redacted]縋テ
テ機ト為ス縄性ハ湿ニ因テ縮リ燥ニ因テ伸フ又縄
ニ代テ縄ヨ糸組リモ敏捷ナル者物アリ猫腸、琴絃、雀麦
鬚カラーフルスピーレン鯨鬣、製精人髪、ナリ此等物ヲ車輪ニカ
ケ伸縮ノ度ヲ知ルベシ

○写本舎密巻七焼酒説

焼酒

リクテル、羅微都二氏ノ説ニ焼酒二十度者ハ重サ水ト
比例メ八百七十八ト一〇〇〇トノ如シ成分ハ亜尔
箇児六十六分水三十四分
三十度者ハ八百二十八ト一〇〇〇トノ如ク成分ハ
亜尔箇児八十六分水十四分ナリ以テ焼酒ノ度数成
分ヲ推求スベシ
三十二度至三十四度者アルコホルアルカリサヱムガラデヱムハ八百一十ト
一〇〇〇トノ如ク成分ハ亜尔箇児八十二分水十八
分
三十八度者ハ七百九十二ト一〇〇〇ノ如ク成分ハ
亜尔箇児九十三分又十分ノ三、水六分又十分ノ七

○[redacted]アルコホル水ニ比ノ七百九十二ト一〇〇〇ノ如シ
茉局樣ニテハ　三十八度
アムステルダム樣ハ　八百十三ト一〇〇〇ノ如ク
抱墨樣ニテハ　八百三十七ト一〇〇〇ノ如シ

○又「リクテル氏アレヲメートル」アリ「タラルレス氏ノアレヲメートル」アリ（等諸家ノ樣器）其ニ醫家亜尓箇児ヲ測ルニ用アムステルダムセアレヲメートル」（其器外形ハ通常）ト茉局アレヲメートル」ト比較セシ（ノ如クニメ合薬ノ用ニ供ス但シ）為ニ二樣ノ度目アリ其一ニハ亜尓个児ト水ノ雜合幾何ヲ記シ一ニハ度數（比水ノ比例）ヲ記スタトヘバ燒酒アリ常用樣ニテ十九度者（燒酒）ハ水ニ比メ八百八十四ト一〇〇〇ノ如シ

即タラルレス樣ニ此八百八十四度（八十九度ノ處ニ）ヲ記シ「リクテル」樣ニ（十九度處ニ）亜尓个児六十五分水三十五分ヲ含ト記スガ如シ」

此種ノ造樣法

列氏十四度華氏六十三度（按列十四ハ華六十三半）ノ時ニ於テスベシ季候ノ変ニ因テ一燒酒ト雖モ同度ヲ得ズ此樣ニテ二十九度ノ燒酒ハ亜尓个児八十八分水十四分ナリト云モ此氣温ノ時測テ然ルナリ

以加里餾者

數〻加里ヲ加テ餾スル者ハ華氏六十六度ノ時測テ三十二度ヲ得

常用係ニテハ　八百十九ト一〇〇〇〇ノ如ク
亜謨係ニテハ　八百三十八ト一〇〇〇ノ如ク
抱里係ニテハ　八百六十八ト一〇〇〇ノ如シ
羅徴都云所謂八百十九ト一〇〇〇ノ如者モ猶水気ア
リ亜尓个児八十九分水十一分ノ和物ナリ此ニ温タ
ル塩酸加爾基ヲ投メ文火ニ餾レバ則華氏六十六度
ノ時測テ三十四度ト為ル之ヲ純亜尓个児トス然レモ
猶火分ノ水ヲ含ム何者三十四度ハ水ニ比メ八百一
十ト一〇〇〇ノ如シト雖モ純亜尓个児ハ「リクテル
ノ算ニ七百九十或七百九十二トスレバナリ

亜尓个児ハ酸炭水ノ三素アリ酸素三四又三二ニ居
ルノミ水ハ酸素八七又五十ノ酸素ヲ含ム
○焼酒ノ水分ヲ分ニガ為ニ餾スレバ其方ニ煮沸セン
トスル片亜尓个児ハ飛散性水ヨリ優ルニ因テ先ツ
水ヲ離テ蛇管中ニ凝テ滴瀝シ二十度ノ焼酒ト為ル
玻瓈列篤尓多ヲ以テ仍一回餾スレバ三十度ト為ル
此以上ハ極テ水ヲ引ク性ノ物ヲ加テ餾スルニ非レ
バ此上ノ度ヲ得ヿ莫シ
○至精亜尓个児ハ水ニ比メ七百九十二ト一〇〇〇
如シ試ニ之ヲ餾水恰モ一千瓦ヲ盛ル玻瓈壜ニ納レ

テ秤稱スレバ其量七百九十二瓦ニ過ギズ然レモ亜尓个児ト水ト氣温同一ノ井堰ニ納ザレバ如此ナヲ得ズ若シ水ハ氣温七十度ノ時堰ニ納タル者亜尓个児ハ二十度ノ井堰ニ納タル者ヲ其儘同一時ニ測ル井ハ必ス差フ此ㇾ水ハ冷氣ニ回テ容縮（プロホルテヲチールヒンドル）テ過分ニ堰ニ入リ亜尓个児ハ温氣ヲ以テ容伸テ少ク入レバナリ」

○茶家常用傜ハ氣温七十度ヲ用テ準トシ造ル

○凡ソ焼酒亜尓个児烈ナルホド之ヲ測ル時ノ寒暄ニ感スタトヘバ二十九度ニシテ「タラルリス」リクテル」ノ傜器ニテ亜尓八十六分水十四分ヲ指ス焼酒ハ一回ハ華氏六十三度列氏十四度ノ井測リ一回ハ別時ニ測試レバ其度著ク変ス故測時ノ季候ヲ最心スベキナリ

○二十度焼酒五斤ニ乾（○タルヤ炭酸）加里一斤ヲ加テ潮了リテ又加里一斤ヲ加ヘ如此メ加里少モ潮ザルニ至テ餾（此ニ尚乾）（加里一斤ヲ加テ加里ト共ニ乾マデ餾ス）レバ其亜尓个児華氏ノ六十六度ノ井測テ三十二度ト為ル○即チ常用傜ニテ測ニ比水重八百十九ト一○○○ノ如ク「アムステルダム傜ニテ八百三十八ト一○○○ノ如ク抱墨傜ニテ八百六十八ト一○○○ノ如シ

○羅徴都云所謂八百十九如一○○○者ハ至醇ノ亜

尓个児ニ非ス亜尓个児八十九分水十一分ナリ此十一分ノ水ハ之ヲ除クヿ甚タ難シ唯塩酸加尓基ニ因テ除ベキノミ○其法此亜尓个児ヲ乾燥作温ノ塩酸加尓基上ニ澆キ玻瓈列篤尓多ヲ以テ微火ニテ餾ス是以テ所得ノ亜尓个児ハ華氏六十六度ノ卅測テ三十四度ヲ得ベシ吾薬局ニテハ之ヲ至醇ノ亜尓个児トスレ𪜈薬局表ニ因テ見レバ必ス少水ヲ含ヿ明ナリ何者三十四度ノ亜尓个児ハ比水ノ数八百一十ト一〇〇〇ノ如シ「リクテル」ノ測量ニ至醇ノ亜尓个児比水ノ数ヲ七百九十或七百九十二ト為セバナリ薬局表ヲ

按ニ比水数、七百九十二ノ如キハ三十八度也然則三十四度ノ者ハ亜尓个児九十三分又三ニ〆水六分又七ヲ含ムト知ベシ此六分又七ノ水分ハ除ヿ極テ難シ但此亜尓个児ヲ塩酸加尓基ノ大塊ニ澆テ其塊僅ニ亜尓个児ニ潤フ程トシテ極テ微火ニテ餾スレバ則除ベシ

○前説ニ據レバ局方所載製法ノ亜尓个児ハ至醇ト謂ベカラズ然𪜈亜的児等医薬ヲ製スルニ用テハ十分ナリ

○ハルレリ硫酸ヽ性亜的児
アーテル、シュルピュリキュス、アシデュス」エリキシル、アシデュム
「アルブレクト ハン ハルレリ」
ハルレリ」ノ創製ニ係故名

精硫酸、三十度焼酒各等分先ツ焼酒ヲ玻堢ニ納レ塞子ヲ備ヘ硫酸ヲ取テ少宛加ヘ起热全ク冷ヲ候テ又酸ヲ加フ起热未タ冷ザルニ酸ヲ加フレバ其堢迸裂メ災ヲ蒙ベシ加了テ時々振蕩シ温煖ニ養フ三日夜ニメ密塞シ貯フ

此法理ヲ暫ニ硫酸剥ク亜尓个児ニ感メ亜的児ヲ生出ス故ニ此剤ハ亜的児ト硫酸ノ合和物ノミ○故ニ之ヲ餾スレバ餾热ニ由テ硫酸愈益く亜尓个児ニ感メ硫酸亜的児ヲ出ス

○アークワ「デペリイ」ヲウデ「ラーベル」ラーベリセ水

硫酸一分亜尓个児三分　製法硫酸ミ性亜的児同シ

○又方硫酸一分亜尓个児四分」

○又緩性一方ハ硫酸一分亜尓个児六分、右成テ後哥摂尼尓或植物色料ヲ以テ紅色ヲ染古人之ヲ「エリキシル　アシデュム　デッペリイ」ト名テ用舎密加家実百尓ノ創製也

○硫酸亜的児　アートル　シュルピュリキュス

亜的児ハ医薬ニ最貴用処ニメ薬局最心ヲ用テ製スベシ

〔製法〕硫酸至烈亜尓个児各四斤ヲ瑱テ混和ス其用心酸性亜的児ノ製法ノ如シ酸ヲ加了テ酸性亜的児ト為テ後密塞メ冷処ニ置キ双嘴列篤児多ニ移シ之ヲ火鉢ニ砂

鍋ニ安シ過大ニ砂ヲ填壅(埋覆)スルヿ無ク下腹ニ一孔アル
受器ヲ接シ装置ヲ動サズメ液ヲ此孔ヨリ瀝ルベクス
而後緩火ヲ漸ミニ装ヒ初出ル精六分ヲ取リ其温ナル
ニ乗メ之ヲ一嘴ヨリ列篤尓多ニ返シ尚緩火ヲ以テ
餾スレバ其精究モ油ノ如ク縷道ヲ引キ列篤尓多ノ裏面ヲ沿
流シ来ル但シ其漸ク油縷交錯シ(極ヲ分テ)樹枝ノ如ク(十九廿八)此レ酒油(ヲレウム
ヒーニイ)ノ出来ル徴ナリ故ニ此ヲ候テ(亜的児)ヲ受器ヨリ取リ之ニ
餾水同量ヲ和シ振蕩スレバ亜的児分レテ水面ニ浮ム
ヲ泌別漏斗(セパレールテレキトル)ニテ泌別シ小玻璃ニ満盛シ緊密
ニ塞テ水中ニ貯フ

餾時長ニ過レバ亜的児硫臭ヲ帯ヿアリ此ハ酸化満俺ト煆製苦土ヲ加テ
微温スレバ則脱ス

亜的児性

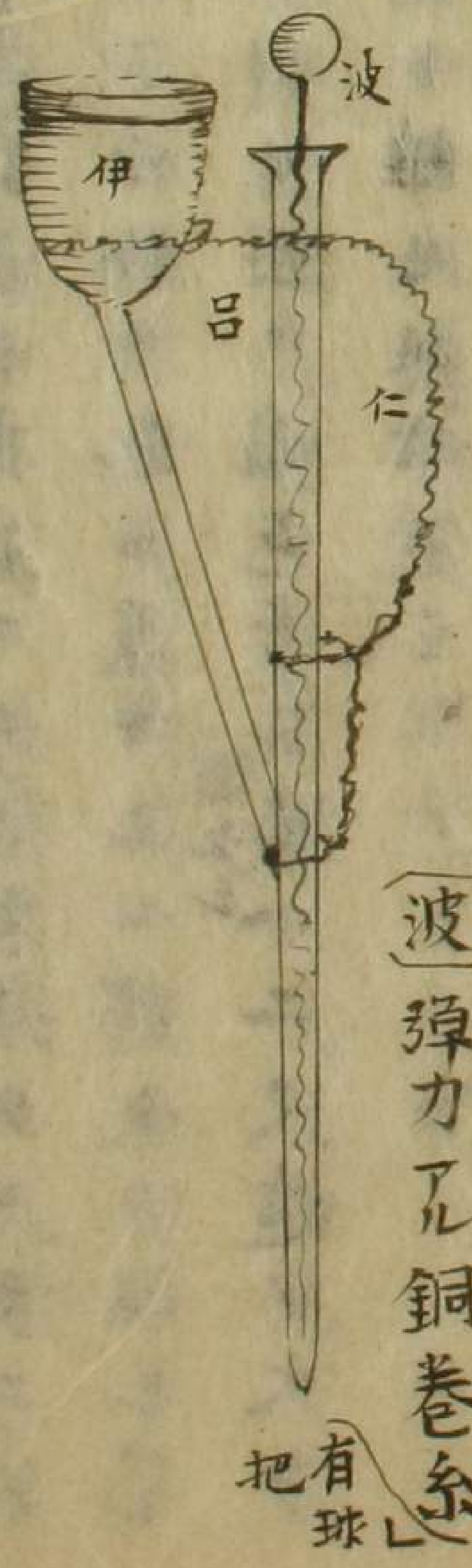
亜的児ハ世間流動物ノ内最軽ミシ其比重餾水ニ比メ
七百三十七ト一〇〇〇ノ如ミ然モ此未タ十分精到
ナラズ羅微都ノ(法ニ據テ精製スル)流ニ清者ハ七百十六ト一〇〇〇ニ
至ルト云〇又絶タ走竄ノ性アリ(二滴ヲ)高處ヨリ落セバ途
中ノ気ニ散メ地ニ抵ラズ一滴ヲ掌ニ傾レバ散逸ノ
迅速ナル掌ノ温気ヲ連テ散去ルニ因テ滴シタル處
寒ヲ覚フ

○世人通知ス水ハ華氏二百十二度热ヲ以テ方ニ
煮沸ス其負重レバナリ然而亜的児ハ九十六度ヲ以テ滚
沸ス其至軽可想ノミ若シ排気鐘下ニ在テハ二
十度ヲ以テ發越シ掌温ヲ以テ滚沸ス又極テ凍
難ト雖モ零下四十四度ノ寒ヲ以テハ凍結ス」

○走竄ノ性盛ナルハ亜的尔ヲ温時ニ此器ヨリ
彼壜ニ移セバ四分ノ一減スルヲ以テ想ベシ此四
分一量ハ気ニ走テ混ズルナリコレ猶至烈ノ亜
尔个児ノ去テ水ニ和シ燥陽ノ時雨点ノ気ニ和メ降
ラザルガ如シ

○亜的尔起寒ノ性ニ因テ七八密扭多ノ間ニ氷
ヲ作ル法ヲ行フベシ

〔伊〕長管アル玻鐘即魯密家所謂「ハールレテレキトルチー」
ヲ用フ〔呂〕常玻瓈爰〔仁〕銅線ニテ作ル把児
全部ヲ㝵定ス○氷ヲ造ントスル時鐘〔伊〕ニ亜的児
盛リ〔波〕弾力アル銅巻糸「有球把」



〔呂〕管ニ
水ヲ盛リ
吹鞴ヲ
以テ管ノ下端ヲ吹ク時ハ巻糸ノ端ニ一片氷ヲ生ス之

ヲ波把鈕ニテ列出シ人ニ示スベシ
香氣馥郁味佳ニメ味道ヲ爽快ニス○極テ火ヲ引ヲ以テ用心アルベシ必許ヲ匙ニ置キ上ニ燭火ヲ臨シムレバ遠ヨリ焔ヲ引テ然ノ焔色青シ或一二尺遠ノ火ヲ引ク亜尓个児ト雖モ此性無シ
亜的児逸扁ノ性アル所以ハ水素ニ和シテ尾斯ト為ント欲スルニ係ル○試ニ亜的児数滴ヲ沙糖上ニ点シ温湯中ニ置バ忽チ気眼ヲ發ス於是湯上ニ燭火ヲ臨セバ其火水面ノ尾斯ニ傳焼メ湯面皆火ト為ル
亜的児ハ亜尓个児ニ和シ水ニハ水十分ニ一分和スルニ

亜的児諸物ヲ溶シ又酸ニ溶タル黄金白金ヲモ和合ス然モ久メ分ル

成分

亜的児ハ亜尓个児ト硫酸ト製法中ニ変化セル者ヲ先賢謂ク製法中ニ硫酸若クハ亜硫酸ノ一分亜尓个児ニ和スル者ナリ此議論久ク判然タラズ○福烏尓格羅乙、般旭尭近クハ索律列氏亜的児ノ成分ヲ論メ盡セリ曰亜尓个児亜的児ハ成分同一ニメ共ニ炭水ノ二素ヲ基トシ些ノ酸素ヲ挾ム又微ク不可言窒素ヲ含ム而メ焼後ニ少ノ灰ヲ燼残ス○右所

謂元素ノ多少比例ハ二物大ニ異ナリ○右三家ノ説ニ

亜尓个児百分	
炭素	四三又六五
酸素	三七又八五
窒素	三又五二
水素	一四又九四
灰	〇又〇四

亜的児百分	
炭素	五八又〇二
水素	二二又一四
酸素	一九又八四

由此觀之則亜尓个児亜的児ト為レバ酸素著ク減耗シ炭水二素ハ増益ス故ニ亜的児ハ亜尓个児ヨリ炭水二素多ク酸素一少キ物ナリ

又此試験ニ因テ硫酸亜尓个児ノ為ニ分離メ之ニ和シ以テ亜的児ヲ為スニ一ハ非ズ唯硫酸ノ性引水故ニ水ヲ引テ此ト和スルノミ○又之ヲ證セン若硫酸分離スル者ナレバ其亜尓加里ニ飽和スル力モ減損スベシ然ルニ亜的児餾後ノ硫酸定度ノ量ニ加里ニ飽ク亜的児ノ製ニ用ザル前ト少異無シ又亜的児中些ノ硫酸分ヲ見ヿ無シ

人必ス硫酸所」引水ハ那䖏ヨリ来ルト问ン亜尔个児固リ水氣無シ亜尔个児所含ノ水ニ非ス此二物ノ元素自和メ天然ニ生スル水ノミ蓋水也者酸素八十五分水素一十五分以為一百分者ナリ之ニ因テ所要多少ノ酸素水素ガ炭素ニ変シ其他ノ酸素水素ハ盡ク炭素ト和セズ其一分ハ別レテ硫酸中ニ残ル故ニ製余ノ硫酸黒色ヲ為ス此炭素ノ色ナリ試ニ硫酸四分ニ亜尔个児一分ヲ和スレバ暫時ニ黒色ト為ルヲ以テ證スベシ此製法中ニハ全ク別物ヲ生ス何者之ヲ連綿ト不断行ヘバ硫酸全ク分離シ初ハ黒色ト為リ漸ク粘稠

ト為リ膨脹シ至甚則怒脹ノ尾斯迫テ装置ヲ迸裂スルヿアリ

按ソウヱエレ」ハ郎サウッシュレ」ノ訛ナリ後章ヲ見テ參スベシ

○デ。ソ。ウシュレ」(沙鳥須列ノ)説ニ亜的児モ元素ハ亜尔个児ト異ヿ無シ亜尔个児百分ニハ窒素三又五二灰〇又四アリ

七百九十三度亜尔个児百分	
炭素	五一又九八
酸素	三四又三二
水素	一三又七〇

亜的児百分	
炭素	五一又九八
酸素	二二又一四
水素	二五又八八

按合某舎密ニ載ル沙烏須最後測ニハ亜尓个児ハ
炭素　五一又九八
水素　一三又七〇
酸素　三四又三二
トアリ此ニハ之ヲ亜的児ノ成分トス

右説ニ據レバ亜尓个児モ亜的児モ炭素ノ量同シ唯所異ハ酸水ノ二素ニメ亜的児ハ亜尓个児ヨリ水素十二分多ク酸素十二分少シ此ニ因テ亜的児ハ亜尓个児ニ比スルニ氣軽ク質之ニ過キ走竄ノ性之ニ優リ可燃勝リ量軽弾力亦更ニ超タリト云此千八百十七年文化十四年ノ說

○千八百十九年文政二年デ。沙烏須列氏最後決意ノ（ラートステプルーフ）試測ニ亜尓个児百分ハ

炭素　五八又二。

水素　二二又一四

此数原如此今算ニ三不足

酸素　一九又五四

○亜的児百分ハ

炭素　五一又九八

水素　三四又三二

酸素　一三又七〇

合某舎密亜尓个児ノ成分ト同メ水ト酸ト数ヲ互ニ易タリ可考

○榕按本説太タ胡乱ヲ覚フ異日参考スベシ蕿氏舎密末巻十葉云亜尓个児ハ生油瓦斯四亜、水二亜、ニ成ル又酸素二亜、炭素四亜、水素六亜ニ成ル

本文ツグ

亜的児ヲ餾スル片初ニ酒油ト名ル油揉液ト一種酸液トヲ滴来ル酒油ハ亜的児ト別性ニメ所謂酸液上ニ

浮ム

酒油ハ製メ新ナル者ハ黄気アリ烈ク硫臭ナリ味辛ク邪悪ナリ亦可燃ニメ亜的児ヨリ劇ク燃ヱ焔亦悪的児ノ焔ヨリ深シ多ク燃セバ著ク炭素残ル其性植物ノ精油ト同メ再製スレバ黄色硫臭去ル此硫臭ハ硫酸分離メ此ヨリ出ルナリ硫酸ノ酸素一分、亜尓个児ノ炭素元ニ其水素ト和メ酒油ヲ為シ硫酸ニ一分ノ酸素ヲ失ヘバ亜硫酸ニ変シ酒油ト共ニ餾出スレハナリ亜的児ヲ餾スルニ心ヲ用ハ此油ノ出来テ混セサルヲ要ナリ○列篤尓多中ノ液沸膨スルハ炭水素尾斯ノ解従スル故ナリ此尾斯ハ羅曹林尾斯ニ和スレバ変メ油ト為ル性ノ者ナリ○餾スレバ酒油出ヿ少ク此尾斯モ亦多ク發セズ

亜的児ニ或亜硫酸或植性酸ヲ含ヿ有リ故ニ酸化満俺及煆製苦土ヲ加テ精製ス此ニ因テ酸化満俺ノ酸素出テ其亜硫酸ヲメ全硫酸ト為シ全硫酸ニ飽和セシム植酸ヲ雜ルニ於テモ苦土ヲ植酸ニ和セシムルナリ此法ニテ精製スレハ医家ニ用ニハ足レリ然モ羅微都氏兼用試験上ニテ尚此ニ亜尓个児雜ルヲ擯考メ左ノ精法ヲ建ツ

○其法 此亜的児ニ乾ケル塩酸加尓基ヲ

加テ振動ス塩酸加尓基ハ唯亜尓个児ニノミ和メ絶テ
亜的児ニ和セズ故ニ亜尓个児ニ和メ亜的児（液ト為リ）其上ニ浮ム
於是其液ヲ去リ尚少水ヲ以テ亜的児ヲ洗ヒ之ヲ塩
酸加尓基砕片ヲ殆ント満実セル玻璃列篤尓多中ニ注キ
極テ緩火ニテ餾スレバ極テ精好ノ亜的児出ツ餾水
ニ比メ七百十六ト一〇〇〇ノ如シ常ノ品ハ七百三
十二ナリ
〇原註云。（硫酸ト親和最切ナル者ハ）酸水二素ヲ含ム物（ニ如ク者莫シ而メ）ト親和最切ナル者
ハ硫酸ヲ最トシ親和スレバ則水ヲ生ス今亜尓
个児ハ水素酸素アリ故ニ硫酸ニ親和シテ水ヲ生出ス

合莫舎密云亜尓个児ノ酸素ノ一分ハ水素ニ和シテ水ヲ生シ其余ハ酸素水素ガ富然多少ニ相和シテ亜的児ヲ為ス此亜的児即今所生ノ水ト共ニ受器ニ出ツ

ルニ所要多少ノ水素酸素ハ相和メ水（ト為リ）生シ（所）其余ノ
水素酸素ハ（恰所要多少ノ炭素ニ和メ）亜的児ヲ為シ其余ノ炭素ハ游離メ
硫酸ニ和シ硫酸ヲ黒クス
右見象ハ硫酸ニ亜尓个児ヲ和シ久貯スル時ハ亜的
児ヲ生シ水ヲ生シ游離ノ炭素ヲ生ス於是或餾
シ或温レバ亜的児ハ蒸気ヲ為テ受器ニ出温素
ヲ失テ液ト為ル

〇焼酒亜尓个児

搭按ニ合莫舎密ニ亜尓个児ヲ二憑ニ出ス今合譯ス
合莫舎密二百四十九章云デ汰烏須列カ最終試ニ云

亜尓个児百分ハ
炭素　五一又九八
酸素　三四又三二
水素　一三、又七〇
至醇ノ徴如左
〔一〕香気佳ニメ靄透シ味如燻〔二〕異重、水ニ比メ七九一ト一〇〇〇ノ如ク〔三〕水ハ多少ニ拘ラズ和ス〔四〕青烟ヲ揚テ燃フ之ヲ火薬ノ上ニ澆キ火ヲ點スルニ先ツ亜尓个児燃ヘ而後火薬焚フ〔五〕精油、ハルス抜尓撒摩、鶏布羅、其種ノ塩ヲ溶ス〔六〕華氏百六十五度ヲ以テ飛散シ去ル故ニ水ニ和スル者餾スレバ則水ト分ツベシ〔七〕苛性加里ヲ溶シ半分離ス〔八〕酸精ヲ和スレバ亜的児ヲ為ス

○百二十三章、焼酒ニ木炭ヲ加ヘ而メ餾時ノ前ニ醇厚硫酸少ヲ点メ餾スレバ佳香ヲ生ス○炭ヲ加テ共ニ餾スルハ宜カラズ初メ木炭ヲ浸メ木炭ヲ除去テ餾スベシ木炭ノ量ハ大概焼酒二十麻篤ニ木炭二十斤ヲ用テ足ベシ

○再餾焼酒　八二八ノ如シ

○合薬家ニ用ベキ亜尓个児ハ比水量八二八ト一〇〇〇

二下ラザルベシ
○至精ノ亜尓个児ハ七九一ノ如シ　○ベルレインノ「リク
テル」亜尓个児ヲ測ル器ヲ製メ亜會魯メートル」ト名ク以テアル
个児ノ異重ヲ測ル
○亜的児　シュルヒュリキユス　アルコホリキユス」忽弗満鎮
痛液
舎密兼医学高名ノ拂歴徳律吉。忽弗満ノ発明ニ因テ
此名アリト云然レ圧此精創造ノ人ハ実ハ忽弗満ニア
ラズ薬局「マルトメイエル」ト云者忽弗満ニ先テ製セリ
○按葛氏舎密云「ハルレ府薬局「マルトメイエル」創

テ此薬露ヲ製シ当時之ヲ万病通治硫精（ヒットリヲリ）パナセア。
ト名ケシガ。偉効漸ク世ニ喧シ。二百年許ノ後大医忽弗満之ヲ鎮痛液
ト号セリ
○消酸亜的児
比水量八六八ト一〇〇〇ノ如シ故ニ二十三度ニ過
ギズ硫酸亜的児ハ七一六ニメ度数著ク高シ
○デイヨウキス云
窒素一六　炭酸三九　酸素三四　水素九
○甘塩精　亜的児　シュリアチキユス　アルコホリキユス
灸乾海塩八分酸化満俺細末一分○定ストリユムブ云海

塩八匁満俺三匁ヲ双嘴列篤尓多ニ納レ砂鍋ニ安頓シ紫瓷ニ受器ヲ属シ一嘴ヨリ亜尓个児十二匁醇硫酸四匁ノ和剤ヲ注キ嘴ヲ葉錮シ緩火ヲ以テ餾シ三分ノ二ヲ取

○但シ後ニ注ク和剤ハ和後急ニ注クベシ否レバ硫酸亜的児ヲ生メ餾出メ本精ニ和ス○此甘塩酸ハ通常ニ塩酸ヲ以テ製スル者ニ比スレバ香気芳烈ナリ好品トス但シ緩火ヲ以テ更ニ再精餾スレバ香味特ニ頂好ト為ル

甘塩精ハ炭酸亜尓加里ヲ加テ沸淬セズ消酸銀ヲ加テ垽ヲ生ゼザルヲ佳徴トス垽ヲ生ズルハ游雑ノ塩酸ヲ雑ル徴ナリ

塩酸亜的児ノ由テ生スル所以ノ理ハ亜尓个児ノ水素ノ一分ミ離シ塩酸ノ酸素ノ一分ニ和メ水ヲ生シ亜尓个児一分ノ水素ヲ失フテ亜的児ト為ル如シ故ニ亜的児ハ炭素水素酸素ニ成ル者ナリ

○醋酸亜的児

醋酸加里、亜尓个児各十六匁ヲ双嘴列篤尓多ニ納レ砂堝ニ安シ容ニ寛大ノ受器ヲ接シ一嘴ヨリ精製硫酸六匁。ニ亜尓个児十六匁ヲ和タルヲ注キテ口ヲ封錮シ緩火ヲ以テ。殆ンド乾クマデ餾ス餾精ニ石灰水ヲ和シテ亜的児

ヲ分チ野フ
醋酸亜的児ハ芳香アリ佳キ古酒ノ氣ニ類ス味亦爽
美ナリ燃レバ其焔青シ○比水量八五〇ト一〇〇〇ノ
如ク至精ナルハ八二一ノ如シ三十一度ニ殆シ華氏百
五十八度ニテ煮沸ス
○又醋酸鉛ヲ以テ製スル法アリ若鉛氣傳染スルハ硫
化水素水ヲ以テ之ヲ除クベシ
○又把理斯ノ舎密家「デュホシール」ハ醋酸銅ニ硫酸ト
亜尓个児ヲ注キ餾シ其後半炭酸加里ヲ以テ洗浄ス
○一法大玻瓈球ニ亜尓个児百分、醇醋酸六十三分、精
製硫酸十七分（豫メ亜尓个児ニ和スル者）ヲ注キ漸〻火ヲ益
メ百二十五分ヲ餾ス之ヲ流動半炭酸加里ニテ洗フ

焚水素尾斯简法
円錐狀ノ玻瓈器ニ亜鉛屑一分ヲ内レ稀硫酸ヲ其上
ニ注ケバ漸ク沸淬ス暫ク沸淬ニ任テ堤中ノ大氣ヲ
発セシメ孔ヲ穿タル鳩尓苦ヲ以テ堤口ヲ塞キ孔ニ
玻瓈管ノ上端漸ク尖リ鳩尓苦ニ入ル所ハ堤口ニ密
合スル者ヲ揷シ其管ヨリ發スル水素尾斯ニ蠟燭ニ
テ火ヲ点スレバ管ノ端ニ火燃テ歇マズ之ヲ斐録所
費亜燈（ヒロソーピセ　ラムプ）ト云○此管ヲ長短數様ニメ

燃セバ種〻ノ音ヲ發ス之ヲ「ミケイキュンデヘスハルモニア」ト
名ク

一 消塩酸

達嘉云消酸ノ一分ヽ離シ其酸素、塩酸ノ水素ニ和メ
以テ水ヲ生シ消酸ノ尾斯分液中ニ結合メ這酸ヲ爲
ス這酸ノ暗赤色ハ此尾斯ノ色ナリ

冰醋

醋酸極テ純烈ナレバ結晶ス之ヲ冰醋ト謂フ
○篤隆氏蒲古尓斯ノ製法ハ寛大ノ双嘴列篤尓多ノ
嘴凋キ者ヲ砂鍋ニ安シ大受器ヲ接シ接際ヲ固封シ
受器ヲ寒泉ニ浸シ或雪中ニ埋メ餾器ノ嘴ヨリ一千ト
一千八百四五十ノ如キ硫酸三比ヲ納レ醋酸加里三比
ヲ火究其上ニ加ヘ毎次嘴ヲ塞テ沸滓セシメ全料ヲ
盡シ沸滓歇テ後醇厚ノ醋酸一比ヲ加ヘ嘴ヲ牢固シ
火ヲ装セズ十二時ノ間安頓スレバ自ラ餾滴スル物
アリ此物餾スルヿ無ニ至テ緩火ヲ装シ餾シ灰色蒸
気出テズ餾液出ザルニ至テ火ヲ徹シ受器ヲ去テ更
ニ別ノ受器ヲ接シ初文火トシ漸ク火ヲ盛ニシ餾滴
スル物無ニ至テ歇ム又甚タ烈ナラザル者出別ニ貯フ
○初ニ出ル酸ハ醇厚比類無ク華氏四十度ノ寒ニテ

既ニ凍結シ四十五度或五十度ノ温ニ融解ス
○氷醋或ハ些ノ亜硫酸ヲ含ム此ハ酸化満俺二分或云十六分十六醋酸加里一分或云四分ヲ加テ除クベシ

燐酸

哺乳動物ノ骨質堅ク長キ者ハ燐ヲ含ヿ多シ
別尔入陋斯曰新鮮人骨ハ弗耳乙酸加尔基一千一百
半分アリ
ホウルコロイ、スニ名リニ曰羊馬牛ノ骨ニハ燐酸苦
土アリ多少アリ牛骨ニハ四十分ノ一馬羊骨ニハ三十
六分餘他獣骨ニハ四十分一ヨリ少シ○牛骨ノ成分
ハ Weeke Sobali 五十一分燐酸加尔基三十七又七炭
酸加尔基十分燐酸苦土一分又三
○骨灰ヲ錫盂ニ納レ醇厚硫酸ニ比又二弓ニ水二十
四比ヲ和メ稀クシ其上ニ注ゲバ或火ヽ沸滓スルヿ
アリ此骨灰中炭酸加尔基ノ致ス所ナリ右合煮ヿ一
時其間時ヽ水ヲ加テ蒸耗ヲ補ベシ鍋ヲ火ヨリ下シ
澱ヲ静定セシメ上清ハ燐酸ニメ澱ハ硫酸加尔基ナリ此
澱ヲ水ニテ洗ヒ洗水ヲ本酒ニ和ス澱ハ錫板ニテ搾
ルベシ 他金有感性

鑛泉

ベルグマン、ゴイトン、ホウルコロイ、沱ストリユムブ、ホフマン等ノ説ニ據ル（一ゴアハ三十匁ロ七分二リ五毛カ）

以下所説ノ泉ハ皆二十ゴ（○水）百六十即六百十一「ヘクトガラム」（六百二十四匁五トカ）

○按ヘ（欧）クト（苦多）ガ（尾）ラム（蒙）マ（ヲ）以テ言フ（四銭）ガラムマ百尾蒙馬ニメ十分一此ナリ（一尾ヲ二分六厘六毛八弗トスレバ百尾ハ二十六匁六分八釐）

即三ゴ二銭十二瓦又十分瓦之一

〔酸泉〕味酸メ（美梨撲子舎利別ノ如ク）炭酸五分ヲ含ミ治病ノ効アリ

○セル沱ルワートル「アークワ セルツ」

炭酸尾術　五分

炭酸曹達　四瓦

塩酸曹達　二十二瓦

炭酸苦土　二瓦

○甘セル沱ル〔アークワ セルヅ ヂユルセ〕

成分同上但（此）炭酸尾斯ハ乾道ヲ以テ離シ水素尾斯ノ一二分ト和シ此ニ因テ其泉味前品ホドニ酸ナラズ

○ピルモント（ツ泉）〔アークワ ピルモンチアニユム〕

炭多尾斯　五分

ーー苦土　十二瓦

塩多曹達　二瓦

硫夋苦土　八氏
炭酸鐵　一氏
○アークワ セドリッツ〔アークワ セドリッチア[illegible]ニユム〕
炭酸尾斯　殆五分
塩夋苦土　十八氏
硫夋苦土　百四十四氏
○スパア〔アークワ スパヤ（ア）ニユム〕
炭酸尾斯量同上又人為ニ製スベシ人為者ハ
炭酸尾斯　五分
｜｜曹達　二氏

｜｜苦土　四氏
塩酸曹達　半氏
炭酸鐵　一氏
○モントドル泉〔アークワ モントデヲル〕
炭夋尾斯　五分
｜｜曹達　四十八氏
塩酸｜｜　二十四氏
硫酸鐵　一氏
○硫化子アペルス泉 aqua sulphurata Neapoli-
tana.

炭酸尾斯　三分
硫化水素　半分
○Vals. 泉
炭酸尾斯　三分
塩酸曹達　十二氏
硫酸礬土　半氏
｜｜鐵　半氏　仝上
炭酸｜　四分氏／三
○Porges.
炭酸尾斯　三分

炭酸鐵　半氏
○Bussang.
炭酸尾斯　三分
｜｜曹達　六氏
｜｜鐵　半氏
○Balaruc.　ミソグエドクニ在リ○二十分中ニ炭酸尾斯倍容
塩酸曹達十二氏
炭｜加尔基　四氏
｜｜加里　同上ヲ含ム
聖京健、痲、臆股痛ニ
効アリ
炭酸尾斯　二分
塩酸曹達　百二十氏
｜｜加尔基　十八氏
炭酸苦土　二氏

塩酸苦土　三十六瓦

○Bourbonne. ボウルゴヲ子ニ在リ

炭酸尾斯　二分

塩夋曹達　七十二瓦

硫酸苦土　二瓦

○シヤテルドン〔Châteldon.〕

炭夋尾斯　二分

ーー曹達　三瓦

塩ーーー　三瓦 仝上

炭夋苦土　二瓦

炭酸鐵　半瓦

○Lamotte.

炭酸尾斯　二分

硫酸曹達　十六瓦

塩ーーー　三十六瓦

炭ー苦土　三瓦

○Vichy.

炭酸尾斯　二分

ーー曹達　三十二瓦

硫ーーー　十六瓦

塩酸曹達　四戊（朱：半）
炭酸苦土　半戊（朱：四）
〃〃鐵　四分戊ノ一

（朱）注ニ當作四戊當作半戊トアリ

○ gingitelli.

炭炙尾斯　二分
塩酸〃〃曹達　五十戊
〃〃〃　十戊
炭酸苦土　二戊

○ Contrexeville.

炭酸尾斯　十二分ノ一

〃〃加尔基　四戊
硫酸〃〃〃　六戊

○ Pisciarelli.

炭酸尾斯　半分
硫炙水素　五分ノ一
〃〃礬土　十戊
〃〃鐵　二十一戊

○ plombières.

炭酸尾斯　二十分ノ一
炭酸曹達　一戊半

ロッタリンゲン」ノ内~~[illegible]~~「レミレモント」ノ近クニ在リ

硫酸曹達　一匁半
塩ーー　一匁
右諸泉ハ多少ニ炭酸尾斯ヲ含ザル無シ故ニ亜尓加
里泉即チ「セダワーテレン」接ニ曹達泉~~亦此ニ属~~「加里泉ノアルカリセ
プランテンワートル」亦此ニ属ス○曹達泉ニ単複三重ノ
三種アリ
○単曹達泉「アークワ アルカリニ ミ子ラーレ シムプレキス」
炭酸~~曹達~~尾斯　四分
ーー曹達　七十二匁
○複曹達泉「アークワ カルカリニ ミ子ラーレ ーーー」

炭酸尾斯、四分
ーー曹達　百四十四匁
○三重曹達泉
炭酸尾斯　五分
ーー曹達　二百十六匁
○加里泉「アークワ アルカリニ ヱゲタビレ」
炭酸尾斯　五分
ーー加里　七十二匁
此外假製スベキ泉多シ今一二ヲ挙ク
○Engheinsche Water (aqua Enghezanine.)

硫化水素　半分
塩酸曹達　三分瓦ノ一
炭酸苦土　仝上
硫酸ーー　二瓦

○ Cauterets.
硫化水素　三分ノ一
炭酸曹達　二瓦
塩酸ーー　一瓦

○ Bonne
硫化水素　三分ノ一

サホイエンノ内ハヲ
ジクチ」中ノフレツキ
メノゲ河邊ニ在リ
ゲチー左ヨリ三里

塩酸曹達　三瓦
硫酸苦土　一瓦

○ Barèges.
硫化水素　半分
炭酸曹達　十六瓦
塩ーーー　半瓦

ビゴルレ」ニ在リ或云硫化曹達、石油ヲ含ム

○ 假泉類
Aix la Chapelle.
硫化水素　三分ノ一
炭酸曹達　二十瓦

塩酸曹達　九瓦

○ Bagneres de Luchon.

硫化水素　三分ノ一

炭酸曹達　三瓦

仝ーー　半瓦

○水素泉〔アークワ ヒドロゲナタ〕

硫化水素泉ニ水素尾斯三分ノ一加フ

○硫化水素泉〔アークワ ヒドロ シュルピュレタ〕

硫化水素　八分ノ一

○ aq: hydro sulphureta fortius.

佛蘭西ノルマンデイノ内「アルゲトン」ニバクノレス泉アリ

硫化水素尾斯　三分ノ一

酸素尾斯　半分

○ aq: oxygenata.

刪宗中ニ神ノ料トス

比尓門多泉

廣義ニ 別尓倔満云、酸美ニメ口舌ヲ爽快スル卜、章吧倔涅酒ノ如シ、但些ノ鉄味苦味アリ、気ニ曝セバ、虹彩ナル膜生ト葡吧泉ノ如シ」

煮沸スレバ炭酸鉄、炭酸加尓基、等物卜共ニ沈降ス之ヲ醋酸ニ浸シ〔ミテ漉セバ〕土質ハ醋ニ溶テ〔漏過シ〕酸化鉄ハ紙上ニ残ル之ヲ漉テ分雑スベシ土質分〔漏過ノ〕タル水ハ煮乾シ餾水ヲ以テ洗ヲ洗過ノ物ヲ

土泥者ハ溶ケ不溶土ト分チ醋酸ニ洗淋ハ醋ニ溶ル分ハ溶ケ不溶者残ル溶タル物ハ苦土。残ル物ハ硫酸加尔基ナリ上ノ煮滓ヲ洗タル水ヲ蒸散スレバ初ニ硫酸苦土ヲ得後ニ硫酸曹達ヲ得ベシ此ニ塩ハ綫ミニ結晶シテ分ツベシ

所含氣尾斯ハ炭酸尾斯ニメ他氣類ヲ雑ヘズ他所含者ハ

炭酸鉄	三瓦又四分瓦ノ一
ーー加尔基	二十瓦
硫酸加尔基	三十八瓦半
炭酸苦土	四十五瓦
硫酸苦土	二十五瓦
塩酸曹達	七瓦

計百三十八瓦又四分瓦ノ三

同宗ニ補ベシ

華聖業尔泉

Dietz ノ邑、aan den Lahn, bij 't dorp Fachingen ニ湧出ス近来「カムプ」名医「チレニウス」之ヲ称シテ世ニ名アリ炭酸尾斯ヲ含ヿ多シ千七百七十九年加。ウッツ」ガ華聖業尔泉説ニ據レバ此泉四斤中ニ所含物

炭酸尾斯	百十寸立方
塩ー曹達	五瓦
炭ー加尔基	十一瓦
硫ー苦土	一瓦
ーー加尔基	三瓦
炭ー鉄	仝上
ーー曹達	九十瓦

計ニ固形物百十三瓦

斐斯列尓表ニ対シ比較スルヿ

華聖業尓泉ハ摂尓摂尓泉ニ似タリ而摂尓ミミ泉ヨリ炭酸尾斯多クメ固形物ハ少ミ鹹味モ落シ塩酸曹達ヲ含ム摂尓ミミ泉ヨリ十五倍モ少シ而[redacted]炭酸ニ飽タル曹達[redacted]ナリ是故ニ此ニ半炭酸加里九十瓦ヲ加テ仍可悪亜尓加里味ヲ生ゼズ *aqua mephitica alcalina* ノ如クニ飲ベシ故ニ此泉炭酸尾斯多クメ鹹味[redacted]日用飲料ニハ摂尓ミミ泉ヨリ優レリ且ツ久貯テ炭酸尾斯ヲ脱セズ少ク酸精脱メモ仍美味ヲ存スレバナリ○炭酸全ク存スル者ハ膽液熱、腐敗熱、班熱フレツキコールツニ奇効アリ又胃膓ノ痙攣、酸敗緑膽液ヲ吧スル者ニ効アリ又小児粘液ニテ胃膓[redacted]腹部諸腺ノ閉塞スル症諸羔効無キ者ヲ治ス既ニ炭酸尾斯有[redacted]又炭酸ニ由テ軽飄的様子ト為タル鉄有リ[redacted]テ衝動ニ以テ蟲ヲ駆リ但ツミナラズ粘ミ蟲巣ヲ勦破ス

假造鑛泉法

鑛泉多クハ山陬海隅僻遠ノ地ニ在テ之ヲ市城ニ瀉ノ難[redacted]時日ヲ経レバ効力脱[redacted]而病一病ナラズ證一證ナラズ泉ヲ以テ治ヘキ者必ス多然則之ヲ假造スル法ヲ議セザルヿヲ得ズ

泉ヲ假造スルハ先ツ水ニ炭酸尼斯ヲ和スル法ヲ講スベ
シ水ニ炭酸尼斯ヲ和スルハ布利斯多列氷槽
プリーストレイアーンセワートルケーグヲ用ルヲ最便利トス其法
炭酸加尔基或大理石碎ト硫酸ヲ大堤ニ納レ堤口ニ
彎管ヲ挿シ其端ヲ槽中ノ板ナル數孔ノ一ヨリ通シ抜
上ニ倒置セル堤ノ頭マデ至ラシム○槽中ニ板アリ此ニ
數多ノ孔ヲ穿ツ其大サ各堤頭ヲ挿ムベシ初メ先ツ一堤ニ
清水ヲ滿実シ之ヲ倒ニ板ノ一孔ニ挿シ彎管ヲ板下
ヨリ堤頭ニ十分深ク挿シ浅則尼斯下ヨリ遁逃ス堤中ヨリ尼斯
騰起スレバ堤水隨テ降ル降テ四分ノ一ニ至ルヲ候ヒ

其マヽ水中ニテ口ニ塞シ本位ニ返シ振蕩シテ尼斯
ヲ水ニ和シ而後復タ堤口ヲ下ニシテ水ノ堤口ヲ開キ其内ノ
水ヲ漏下セシメズ但堤内炭酸尼斯ノ失ヘル所ノ空積ニ大氣ヲ
補充セシムベシ此ハ大氣ヲ堤内ノ空積ニ充テ其壓
力ヲ以テ水ト炭酸尼斯トノ和合ヲ保固センガ為ノ
ミ如此シテ數十堤ノ水ニ炭酸尼斯ヲ和シ竟ニ之
ヲ一大畜ニ合シ貯ヘ假泉ノ料トス
~~此料[illegible]ノ裝置ハボヲイ[illegible]ガ[illegible]ノ裝置ナ~~
~~リト雖モ或ハ價貴ク或ハ不便ナリ~~「イ○カ○ミカラーデル」ガ
世ニ著ス所ベルリン府薬局メイエル」ガ多力揖尓ミミ

假造法ノ如キハ最便ナリト謂ベシ其法ベルリン法ニ「クワ
ルテン」（按クワルト」是名英吉利ノ「クワルト」ハ半ストープ○獨乙クワル
ト」六三十六弖○ストープ」六百五十六戔ト云斤ハ
ト半ストープ」ハ三百二十八戔
ナリ」）ヲ容ベキ大壜ニ清泉ヲ満実シ
之ニ炭酸尾斯ヲ和ス此ヲ和スルハ寛大提ニ大理石
或漆白炭酸加尓基ト稀硫酸ヲ納レ二段ニ彎タル管
（按S字様ノ）ヲ擣シ実水大壜ヲ水槽ニ安シテ之ニ
炭酸ヲ和シ常甘攝尓ゝ泉ニ比スレバ水量一二弖
少キホドニ降シ（之ヲ定限スル法ハ水ヲ壜ニ入レ
固塞シテ倒ニシ白亜ニテ線シテ水ノ高サヲ記シ其後
水ヲ満実シ倒ニ水槽上ニ置キ尾斯ヲ昇セテ其水亜

△△按五瓦ハ
曹達ノ
マヽ存ス

線マデ降ルヲ候ヒ水中ニテ塞キ振盪シツヽ時々塞
ヲ後メテ大気ヲ入ル此
○炭酸水一壜毎ニ炭酸曹達（ノ風化シテ粉トナル者）ノ乾者五十五瓦
ヲ水二弖ニ溶シタルヲ和シテ密塞シテ振盪スレバ
仍壜中ニ在ル炭酸瓦斯能ク水ニ和ス○此水ヲ攝尓
ゝ甘ニ入レ塩酸適宜量ヲ加ヘ急ニ栓シ「ハルホイス」
ヲ塗リ貯フ塩酸ハ水中ノ曹達五十瓦ニ飽テ塩酸曹
達ト為ル量ヲ豫測知テ加フ
○按花尓否斯ハ黄蝋一廿的列並帝那一弖半弐ニ
オヲ烊和ス或帝那ヲ減シ華尓斯ヲ加ヘ烊和ス硬

軟數種ヲ製備ヲ時宜ニ應シ用ベシ
炭酸水ニ曹達ヲ和スル者ニ塩酸ヲ加ルニ因テ塩酸。
曹達ニ和シ炭酸瓦斯發越シ其積殆ント甘容ト増
長ス然ルニ堤口緊牢ニメ出ヿ能ハズ堤中ニ滞リ壓
迫シ壓力ニ因テ己ヿヲ得ス強テ水ニ和ス故ニ此假
泉ハ天然ノ者ニ比スレバ効力萬ミ強ク味亦甚タ鍛
遠ス且ツ本然ノ如キ無用ノ炭酸加尓基苦土無キニ
因テ酸味清爽ナリ○塩酸ハ務テ清粹ノ者ヲ用ベシ
又餾水三四分ノ一ヲ和シ再餾シテ塩酸ノ臭全ク消
スルニ至テ用ベシ或ハ試ニ水ニ和シ嘗テ邪味無ヲ

俟テ用ベシ○此假泉ニ著ク鐵分ヲ賦ント欲セバ鳩
尓苦栓下ニ精鐵折一條ヲ揷シテ堤口ニ塞シ後之ヲ
抜去ルベシ但シ泉水ヲ以テ製タル假泉ハ鐵ヲ賦ル
者ハ速ニ用盡ベシ餾水ヲ以テ製セバ鐵ヲ賦ル
者ハ四週日ハ貯服スベシ

外篇巻一之冊補譯

別尓孤満ノ試驗ニ水中ノ物ヲ
含ム者アリ其物一種ニ非ズメ八種
則其各物ノ量ハ水ノ八千分ノ一ニ居リ故ニ水中ノ物
ヲ分析シテ其多少分量何樣物質ヲ辨セント為ハ非常ノ精巧丁寧ヲ要スルヿ憶ツベシ

△仏蘭西語ヲ以テ亜乾泉記ヲ著ス其概略云

○硫泉中ノ硫黄ハ水素ニ和[redacted]ノミナラズ窒素ニ
和スル者アリ亜乾硫泉ノ如キ是ナリ〔独乙ニ在リ
泉源ニテ硫黄ヲ取ル
○カーレル ギムベルナット スン マドリッド」ハ積学ノ山物家ナリ
ノ舎密ニ長セリ一時所患有テ亜乾泉ニ灌浴シ此ニ甲
其泉性特ニ尾斯ノ性ヲ刻苦ノ探索セリ始テ此尾斯
ハ善通硫泉ノ尾斯ノ如ク硫化水素尾斯ニアラズ硫
黄窒素ニ和ソ尾斯ヲ為ス者ナルヿヲ発明セリ○硫
化水素[redacted]泉ハ消酸或他ノ山酸ヲ加フレバ擇和
ノ理ニ因テ必ス[redacted]硫黄迸ヲ為メ沈降ス然ルニ此泉

内篇才九十九章十二法尓罹嗜的児泉アリ

ハ否ス此硫化窒素ナル徴ナリ○[redacted]リ「
サボン」ノ加尓達斯泉ノ如キ亦テリレクノ試説ニハ
硫黄窒素尾斯アリト云○亜乾ノ近村「ビュルドミケイ
ド泉ハ亜乾ヨリ熱シト雖モ少モ硫気無シ[redacted]
[redacted]魚眼勃ミトメ起ル「ギムベルナット」其魚眼ヲ試テ
窒素尾斯ニ炭素尾斯雑ル者ナルヿヲ知ル此尾斯ニ
石灰水ヲ和振スレバ炭酸去テ絶テ窒素尾斯ト為ル
凡温泉ノ熱ヲ瀉ルハ地下ノ石炭自ラ焼ル者ニ遇テ
其熱気ヲ稟ルナリ今此泉ニ在ル窒素モ揮性体ヨリ
生スル所ノ者ナリ

原巻一ノ三百七十九丁ウ再校

亜乾泉ハ成分ハ硫黄、室素尾斯ニ、浣タル者ニノ兼テ硫黄炭酸尾斯ヲ含ミ甚火ノ
水素尾斯、炭酸加尔基。炭酸苦土アリ又必ス埜酸加尔基 埜
酸苦土有ルベシアレ𪜈此ハ曹達ニ因テ顕ミ得ベシ又岦ノ法尔
斯地脂土脂アリ○ビュルドミケイドセ泉ハ硫黄無クメ
埜類、室素尾斯、炭酸尾斯ハ亜乾泉ヨリ多シ
把里斯ニテハ賓尔及「コムプ」ニ氏家アリ大薬匠家ヲ達
テ諸般ノ鉱泉ヲ假造シ内服澡浣ノ用ニ供ス其所
造亜乾泉ハ浴シテ刺戟強シ蓋シ天生ノ者亜乾ハ硫
化室素ニノ刺衝穏ナリト雖モ此假造ノ者ハ硫化水
素尾斯アルガ故ナリ」

以上巻一説

○鉱泉中塩類

○鉱泉諸般ノ塩ヲ含ト雖モ硫酸加里、硫酸諳模尼亜、
硫酸重土ーーストロンミ土有ヿ無シマヽ硫酸礬土加
ミ里アル泉アリ○火山ノ邊ヨリ湧ク泉ニハ亜硫酸ノ
諸埜有ルベシ然𪜈未タ此有者ヲ見ス蓋シタトヒ亜
硫酸埜有ルモ大気ニ中レバ其酸素ヲ受テ全硫酸ト
為ルガ故ナリ○源深キ泉ニハ清酸埜有ヿ無シ清酸
ハ大気ニ動体ノ腐壊ニ由テ生スル者ナレバ深ク地下ニ在テハ此
ヲ生ゼズ然𪜈泉源ノ偶〻此物ニ觸ルヽ更有ルハ偶
然ニ清酸塩有者無シト言難シ○埜酸塩ハ泉中必ス
多シ然𪜈塩酸加里ーーアムモニアーー礬土ーー

此石鈍稜骰子ニメ「本角ト三角トナリ二十六面アリ」第十四図ノ冬号ノ如シ

「ウエストリユムブ」試測ニ加尓基土十一分蓬酸六十八分苦土十三分又五〇苦土一分硅土二分酸化鉄〇又七五」

斯多侖土有ノ無シ但稀ニ埜酸重土有者アリ○泉中
常ニ多キハ埜酸曹達ー｜加尓基ー｜苦土ニテ三ノ塩
泉ヲ[redacted]為ス[redacted]一然レ氏之ヲ日用ノ塩トシ用レハ摂生ニ不良ナリ宜ク曹
達ヲ加テ[redacted]土[redacted]加尓基苦ヲ除キ用[redacted]ベシ
○本名「ボラキット」ワーゲナームテ「テイルリンハクセ クワルツ」披方解石ハ蓬酸、苦土、加
尓基土ニテ成ル[redacted]石塩ニノ往ニ泉中ニ有リ水ノ蒸散急徐ニ因テ或ハ透明
シ或ハ[redacted]透明セズ圓形ヲ為者ハ唯天然ニ見ル「ミチンビエルグノ山トウヘル」
ニ産スレ氏其実ハ蒼地ノ泉中ニ有リ○又常ノ蓬砂酸
ヨリ曹達多キ者跂暹巴ノ泉中ニモ有リ此塩アル泉ハ火ク蓬砂ヲ有ツ泉ハ
波斯亜細亜中ニハ多ク稀ナラズ○又崋酸石塩アリ卉耳乙

酸加尓基アリ
○炭酸尾斯ハ山物ヨリ多ク發スルガ故ニ泉中ニ多
シ炭酸苦土炭酸加尓基ハ水ニ溶ザル者ナリト雖モ
炭酸過多キ泉ハ炭酸過多ノ為ニ此モ能ク水ニ溶解ス故ニ
其泉ヲ煮沸シテ炭酸尾斯ヲ散シ[redacted]減スレバ其土分分
テ沉ム○稀ニ少量ノ炭酸諳模尼亜ヲ含ム泉アリ○
炭酸曹達ヲ含ム泉ハ甚タ多シ之ヲ多分ニ含ム泉ヲ
亜尓加里泉ト稱ス泉中ノ亜尓加里ハ皆炭酸亜尓加
里ニメ苛性ノ者無シ假令コレ有モ暫時[redacted]ニ気中ノ炭酸ヲ引テ
[redacted]炭酸亜尓加里ヲ為セバナリ

○特立ノ泉中ニ在ル土類ハ礬土珪土ナリ礬土ハ真ノ溶和ニアラズ唯微細ニ砕ケテ泉中ニ在ルナリ故ニ澱ト為テ沉ム珪土ハ諸ヲ含ム泉多シ且多分ニ含者アリ其水気減スレバ石皮ヲ為スナリ或動植ノ體ニ珪土多キ水ヲ滲収メ石ニ化スル者アリ

○游離ノ泉中ニ在ル酸ハ蓬酸炭酸ナリ蓬酸ハ多施加亜年地湖中ニ有リ炭酸ハ随地諸泉殆ト之ヲ含ザルハ無シ之ヲ含ニ因テ土質塩類能ク水ニ和ス炭酸脱スレバ塩中ノ土分ゝレテ沉ム但硫化水素尾斯アル泉ニハ炭酸無シ

昔人或謂ト金属本性ノマヽ直ニ水ニ溶解スルアリト謂ヘリ非ナリ唯酸ニ和シテ塩ト為リ或酸化スル者ハ則水ニ和ス故ニ毒性ノ金属塩水ニ和シテ毒泉ヲ為ス然モ幸ニシテ毒性ノ金泉稀ナリ唯多ク有ハ硫酸銅泉ナリ然レモ此唯銅坑ノ近傍ヨリ湧出スルノミ砒ヲ含者ハ甚タ稀ナリ鐵泉ノ如キハ多般ノ病ヲ療ス大抵炭酸鉄ニ溶解ス卜硫酸鉄、塩酸鉄アルハ稀ナリ

鑛泉四宗類

鑛泉ヲ四綱ニ分ツ酸泉、中塩泉、硫泉、鐵泉ナリ○酸泉ハ炭酸尾斯アリ其地ヨリ致ス甘即堨口ヲ放テハ怒発ス勒佉母斯浸

ヲ加フレバ紅色ト為ル○炭酸或重土或斯多倫土ニ和
スル者アリ此泉ハ重土斯多倫土ノ溶液ヲ和スレバ
炭酸ハ亜尓加里性ノ土質ニ和シ不解ノ土塩ト為テ
沈ム○此泉ト炭酸ノ外ニ塩酸曹達或炭酸曹達或炭
酸加尓基或炭酸苦土ヲ含者アリ此四種塩並ニ有ル者
アリ摂尓ミミ泉ノ如シ又既ニ諸塩アリ尚鐵ヲ含者
アリ華聖業尓泉ノ如シ此二泉ハ冷泉ナリト雖モ亦
温泉アリ門多度尓泉。汝的尓。キ乙翁泉。斐西泉ノ如シ
○中塩泉ハ炭酸尾斯無ク唯中和塩ヲ含ム者ヲ謂フ唯
硫酸加尓基ノミ含者多シ悪井ノ水モ硫酸加尓基アリ

故ニ錫布ヲ分離メ物ヲ洗濯スルニ不佳ナリ菜蔬ヲ
煮テ熟シ難シ又稀ニ硫酸苦土ヲ含者アリ越布索模
泉。摂度律都泉アーノ多セドリッテアニエム波亦米舍度斯（亜摂度律都村ニ出温泉ナリ）
屈都泉ノ如シ唯一味ノ塩酸曹達有テ塩水ノ如キ者
ト隨地ニ多シ塩ヲ煮テ民用ヲ利スベシ又曹達多メ
著ク亜尓加里性ヲ著ス者アリ又炭酸加尓基ノ炭酸
ニ過飽スルヲ多ク含者アリ此ハ炭酸ヲ失ヘバ石膸
ノ如キ形ヲ為シ或ハ石皮ヲ生ス故ニ薬用ニ充テズ
○硫泉ハ敗卵臭アルヲ以テ著ク知ベシ又之ヲ銀器
ニ塗ルニ初ハ其硫気銀ヲ金色トシ後黒色ト為ル○

出テ氣ニ中レバ硫黄沉ム此泉多クハ其硫黄水素尾
斯ニ溶和メ有リ此草ナ硫泉ナリ「バルエーゲ泉」「カウテ
レッツ泉ノ如ミ亜乾ト硫泉ナレ圧水素無ク其代リニ
窒素アルヲ以テ名声特ニ藉ク此外塩酸硫酸ノ諸塩ヲ
含者多シ又冷硫泉アリ又温無シ

○鐵泉ハ随地ニ多ク所含ノ鐵量多キト分散アリ盖
シ全地球ノ地下アラザル處ナケレバナリ又鐵ハ好ン
テ炭酸ニ溶解スレバ之ニ溶テ泉中ニ有リ○或ハ其
鉄ヲ溶スニ足ベキ多少ヨリ多ハ炭酸無キ者アリ此
泉ト他ノ炭酸多キ泉ノ如ク泡眼ヲ起ス性無シ之ヲ

Passy. Provins.

Forges. D'aumale. Condé.

單鉄泉ト名クホルゲス泉、ダウマレ。デマレト書昆度列、
ノ如シ○或既ニ炭酸鉄アリ更ニ多量ノ炭酸尾斯ヲ
有ツ者アリ蘇吧　華聖業尓　ピルモント諸泉ノ如
シ○又其鉄硫酸ニ溶テ有ル者アリ　パッシイ　プロ
ヒンス　諸泉ノ如シ

前章注　附録巻ニヨル

○鐘乳　ドロイプステーン

水中ノ加尓基分沉降メ生スル石ナリ」或束針紋アリ或
葉状ヲ為ス又加尓基分瀝滴シテ自ラ天造物ノ像ヲ
為スコアリ世ニ善化石、石蕈、石蚕、ト云物ノ如シ又自ラ茎

Package.　　摟ニ斯布律 德[illegible]泉 皃白[illegible]泉 ナリ[illegible]皃 皇[illegible]傍ニ辞 十　　Sprudelstein.

餅ニ似タル者アリ世俗相傳テ魔術者真餅ヲ石ニ化セシ者ナリト謂ヘリ「カールルスバット泉」(加刺児泉)中ニ産スル「スプリューデルステーン」(斯布律徳爾石)モ此類ナリ其形色百般ナリ「ギブラルタル」ノ山ニ一巌アリ牛羊ノ骨推積シテ成ル盖シ洪水前世ノ物ニシテ加爾基液ノ注瀝ニテ崔嵬タル巌ヲ成セシナリ最奇ト稱スベシ

又落皮ヲ為シ物ヲ被包スル者アリ「カールルスバット泉」中ニ産スル豌豆石ト名ク者モ此屬ナリ此石ハ加爾基液石皮ヲ為シ層々重畳シテ成リ或ハ琢磨スベキアリ或ハ否者アリ

○ラカエ河水ノ注ク所ニ生スル葦蘆ハ石皮ヲ被ル

理家流ニ諸アレモ亦此屬ナルベシ

先年加比丹スコルルヒ信石ニ科兜ヲスラレヲ埜ニテ「エイブセンステーン」ト云ヘリ

○ボマーレ海条

海水ト常水ト比例スレバ其重七十七ト七十トノ如シ一尺立方ノ海潮七十七斤ナルトキハ一尺立方ノ河水ハ七十斤ナルヲ云フ其重サハ海塩ノ重ナリ

潮色ノ暗色ナルハ海水重シテ深キニ日光中ルニ因リ

紅海ノ潮色紅キハ海底ノ砂赤キニ因リ「アフリカ」濱ノ「コロース」海即緑海ハ海中ニ海藻ナド緑色ノ草多キニ因リ

○海水ハ一尺立方ニテ常水ヨリ重キ三北

ブリッソン表

		一尺立方
餡水	一〇〇〇	七十北
海水	一〇二六三	七十一北十三了三了四十七弋
死海	一二四〇三	八十六北十三了一了六弋

○アークワパガデニカ　写本

塩酸須二十弋石灰水一北ニテ製スル常ナリ○理解ハ塩酸加尔基ニ和シテ塩酸加尔基ヲ為シ此ニ因テ須黄粉状ト為テ降ル元来須中ノ塩酸ハ水中ノ加尔基ヲ分離スルヨリハ多ニ因テ此液中[redacted]ハ塩酸須

塩酸加尔基、酸化須、三ノ物[redacted]併和スル者ナリ故ニ頼畧和合物ニシテ親和ニハ非ス

近日併柔舎密家ノ説ニ焦製石灰水一北ニ塩酸須三十弋ヲ和シテ其分量宜ニ適フト定ム故ニ此剤ハ塩酸加尔基酸化須水三物併合スル者ノミ

水九類

鑛水ヲ九類ニ分ツ○第一清水　餡水、雨水、雪氷、ヲ属ス○二　常水　河水、泉水、○三　海水　○四　阜尾斯水　○五　塩尾斯水　○六　アルカリセ酸尾斯水（エンケレガス ワートテレン）　○七　塩水　○八　鉄塩水　○九　硫化水

療浴

三等ノ法アリ一淋浴ドロップバーデン二沈浴ドムペルバーデン三ストルトバリデン」

淋浴トハ「カラーン テレキトル」或嘴寛アル器ヨリ注テ徐〻ニ患部ニ淋瀝灌注スルナリ其之ヲ注落ス高サハ醫ノ指揮ニ依ルベシ其温度ハ温冷寒ノ三等アリ温者ハ華氏九十六度即人身常温度「元来ト八十五度至九十六度」○微温ハ六十五度至八十五度○冷レクーハ五十度至六十五度○寒ハ三十二度至五十度○熱ハ害ナキホドニ斟酌ノ處スベシ

造酸泉法　写本

大麦芽ゲルステモウトシ四斤ヲ泥塊トシ半小時ノ後之ニ沸湯二十四斤ヲ加ヘ「トロク」内ニ攪和シ手ヲ駐メズ攪テ華氏八十六度ニ至リ凋三尺高六尺ト算ス一二小時ノ後常ノ麦酒酵ビールギスト一斤半ヲ加ヘ八十六度ノ温トシ置ク件ハ二十四小時ノ後醗酵シテ桶ニ充満ス非是焙火ヲ其上ニ臨シテ其火滅スルヲ以テ炭酸尾斯醗スルヲ知ル二孔アル木蓋ヲ密蓋シ其一孔ニハ鉄葉ノ「」ヲ属シ管ヲ以テ浴槽中ニ納ル槽ニハ一或二或四分ノ三好ニ應メ満此ニモ亦蓋アリ○第十

孔キハ水ヲ入ル丶為ニ設ク水ヲ入ルトキハ尾斯水面ニ壓
迫セラレテ他ロヨリ追装ス

又法

尋常天生炭酸加尔基ハ九ロード」ニ水三尺立方（三尺立
方水ハ「エムメル半許ヲ加ヘ烈キ硫酸四匁或四匁
半ヲ加フトキハ炭酸尾斯（二尺立方ヲ發ス此尾斯ヲ水ニ和スル
装置ハ前ニ出

炭酸外ニ酸化鉄其他物ヲ含アリ所謂「スタール」「バーテン」ニテ
「スパー」「デリービュルク」「ピルモント」等是ナリ
ヒルモント泉造法ハ「ミュルパス」「スタール」「ピタ」「ケレースト」ニ

銭ヲ炭酸水九匁ニ溶シ半炭酸加里三銭ヲ炭酸水六
匁ニ溶シ此ニ水ヲ和合スレバ炭酸鉄、硫酸鉄、ヲ生ミ
炭酸多ニ因テ水ニ溶解ス硫酸加里炭酸加里モ生ス

造鉄泉法

炭酸加里ヲ水ニ飽和シ硫酸酸化鉄ノ溶液ヲ同量ノ
水ニ溶シ水一匁毎ニ即鉄溶液ノ水醇厚硫酸一瓦ヲ
加フ用ニ臨テ二液ヲ合ス

又法

雨水二百彬馬至二百五十彬ト定メ新結緑色酸化鉄
五百十六瓦ノ溶液ヲ作リ此ニ醇厚硫酸三百八十

△炭酸鉄泉ハ天生湧出ノ者ノ如ク清澄ナルヲ貴フ此ハ所用炭酸加里硫酸鉄ノ分量適度ヲ得ニ在リ

瓦ヲ加ヘ又其上ニ炭酸加里二百四十瓦ノ溶液ヲ加ヘ（作リ）（適宜一分ヲ取テ）浴泉トス○硫酸ハ（炭酸加里ト）炭酸ヲ發ス（硫酸ニ由テ分レ）然モ其炭酸直ニ水（相合メ水ニ和シ）ニ和シ炭酸水ト為リ能ク酸化鉄ヲ溶保ス○此水（假泉）一挼ニ炭酸ニ化鉄一瓦ヲ有ス○△

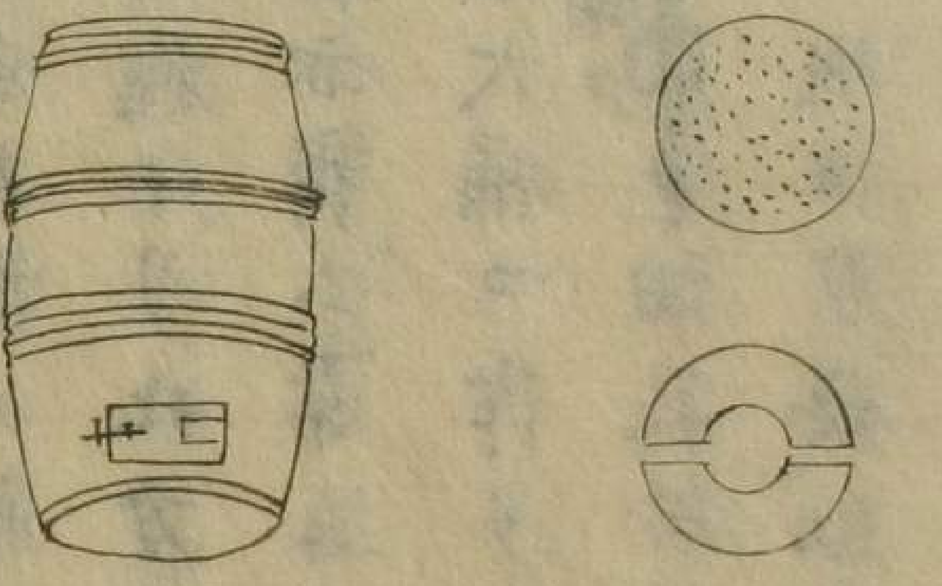
ボルケス、子ンドルフ、アンギーン、ボ泉法

雨水二百ピント至二百五十ピント」ト定メ天生炭酸加尓基 硫酸加尓基右同量ヲ和シ水ヲ和シ醇厚硫酸ニ水ヲ和シ貯ヘ用ニ臨ンデ和合ス之ニ因テ炭酸分テ水ニ和シ加尓基ハ沈ミ又硫化水素生メ水ニ和ス此泉ハ温ノ勿レ温ムレバ炭酸水素飛散シテ硫黄沈降ス温レバ然ルノミナラズ患者久ク泉中ニ在テモ然ルコアリ

fin

蒸氣浴

全身或各部ノ病ヲ療スルニ蒸氣浴（ダムプバーデン）アリ亦蒸泉ノ別種ナリ北方諸国ヒニランド、魯細亜ノールヱーゲン、蕃亦齊ハ常ニ之ヲ用テ病ヲ治ス

其法大桶ヲ作リ重底アリ初底ハ常ノ底ニメ弟二底ハ~~十面~~（編シ）細孔ヲ錐開ス二底ノ間ニ扉アリ開闔自在ニス此ヨリ熾紅ノ尾或鉄ヲ納レ此ニ水或他水ヲ注キ人桶中ニ坐メ蒸氣ヲ受ク或蒸氣ニ香油ノ氣ヲ和スル者アリ

○患者ハ第二底上ニ居テ蒸気ヲ承ク桶圖ハ高ノ患者ノ頸上ニ及ブ耶ニ穿竅ニメ二片相合メ環形ヲ為ス蓋アリ環ヨリ患者ノ首ヲ出ス